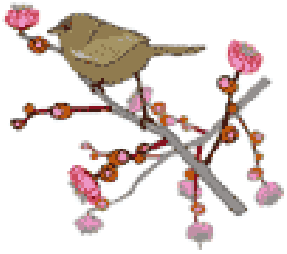
英国春秋

２０１５年　春号
ＩＳＳＵＥ　Ｎｏ．２６
発行　英国日本人会

はじめに



一年で一番待ち遠しい季節、春の到来です。地中に眠っていた植物が顔を出し、葉を落としていた木々が新芽をふき、森が、公園が、街全体が春の息吹で躍動を始めたようです。早く春の息吹に触れたいと待ち焦がれる思いは、年々強くなって行くようですが、やはりこれも加齢のせいでしょうか。

春号の特集は「夢」で、色々な夢のエッセイが集まりました。不思議な正夢、逝った人も登場する夢、夢の一考察、理想としての夢、そして“冷夢”と言う新造語まで飛び出しました。

夢をみることは自分の中に隠されている無意識の世界との対話の一手段でもあり、非常に重要なことであると物の本には書かれています。自分の中に大きな位置を占める無意識の存在を認め、それとうまく共存していくことが自己を全うすることになるそうです。「意識のない世界をどうして知るのか？」とは少々瞑想的な質問ですが、無意識の世界を知るということは、もちろん夢や本やその他のヘルプを得て、「私は私のすべてを知らない」と云う事を認識することでもあると自己流に解釈しています。そして、より謙虚、ハンブルになれと云う事なのでしょうか。歳と共にすべてに柔軟性を欠き、頑固になっていく自分を顧み、意識と無意識をうまく操りながら、「意識＋無意識＝個性化の旅」を辿って行ければよいのに・・・とこれが現在の、私の“ゆめ”のようです。

『英国春秋』春号２６号の完成です。今回投稿いただいた会員の皆様、そしてゲスト・ライターの方々、大変有難うございました。寄せられた作品が一冊の文集となりその編集作業が終わった今、喜びと淋しさが同居するいつもの複雑な思いに浸っています。今後とも皆様のご支援を宜しくお願いいたします。

特別寄稿

川村博司氏　　（在英日本大使館総領事兼総括公使）

津村禮次郎氏　（文化庁文化交流使・観世流能楽師）

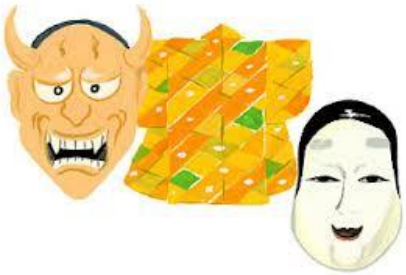
アイウエオ順

＊　＊　＊　も　く　じ　＊　＊＊

はじめに		
ロンドン・ジャパン祭り２０１４に参加して	津村禮次郎	４
夢の時間の Riddle(謎)	ビドル　恵	５～　８
英国春秋つれづれに		８
年寄りの冷夢	加藤節雄	９
夢を楽しむ	矢嶋蓉子	１０
夢の画廊	クーパー矩子	１１
美しいもの	田村陽子	１２～１３
夢	古川隆	１３～１４
マジックと外交	川村博司	１５ˆ１６
帰国中に体験した二つの正夢　デジャ　ヴー	ガフ二ータミー	１６－１８
英国春秋歌壇　　新　春	バロー典子	１９
英国で創業	佐野圭作	２０～２１
故郷日本再発見の旅	岡村光雄	２１～２３
「Never Let Me Go」カズオ・イシグロのミステリアスな世界	小川のり子	２４～２５
英国春秋俳壇　俳句会作品		２６
ビール、移民　そして 38 番のバス	西川千春	２７～２８
私の見たバングラデッシュ	メイゑり	２８～２９
英国春秋俳壇　　チューリップ	エリオットつやこ	３０
我が青春の助監督時代	渡邊道英	３１～３５

ロンドン・ジャパン祭 2014 に参加して

津村禮次郎



初めてイギリス、ロンドンの地を踏んだのは確か 1985 年であったろうか。かれこれ 30 年も前である。国文学者で作家でもある林望氏がケンブリッジ大学で調査研究されておられる折に訪問し、ロンドンもご案内頂いた。それ以来、ロンドンフェステイバルに参加、カンンタベリーでの世界演劇学会への招聘など、イギリスとの縁が次第に深まっていった。

シェイクスピアの「オセロー」に基づく創作能「オセロー」を携えてスコットランドを廻った苦労も、今となっては楽しい思い出ばかりである。そんな中、東京滞在中の演出家・エドワード・ホール氏や、ストラトフォード・アポン・エイボンのＲＳＣで能のワークショップ終了後、サミュエル・ウエスト氏らと知友になれたことは大きな喜びであった。

近年は 2005 年イプセン作「人形の家」を翻案した能と現代演劇のコラボレーション作品「ふたりのノーラ」をノルエ―公演後、ロンドン・ＲＡＤＡの小劇場で上演することができたのは貴重な体験である。その後、私の関心はアジアに向かい、ことにインドネシア・バリとの縁が深まった。バリの音楽集団や舞踊家とコラボレーション作品を作り、東京でも公演することができた。

今回のジャパン祭 2014 の参加はまさに 10 年ぶりのロンドン訪問という待望の機会を与えて頂いたことに感謝したい。ロンドンはオリンピック大会を成し遂げどんなに変わっているだろうか。2011・3・11 の大災害を機に日本人の世界観は大きく変わった。しかし変わらない部分も大きい。今回ジャパン祭に参加するに当たり選ばれたテーマは、その大災害からの復興と世界中から寄せられたサポートに対する感謝であった。復興とは旧態を復元することではなく、未来への発展がなければならない。酒は世界のどこの国、民族にも固有の飲み物である。それはまた文化である。日本酒の優秀な酒所、東北宮城、そこに育まれた一つの蔵元、その復興と、現代に世界に羽ばたこうとして新たな生れた日本酒「伯楽星」。伯楽とは人を導く先達、伯楽星は人の道しるべとなる星である。この新たな日本酒「伯楽星」に託してジャパン祭に参加のダンス作品が作られた。

能や狂言には酒をテーマにしたドラマが多くある。狂言は酒好きの失敗の物語やおかしみを見せる芸能であるが、能は酒がもつ神仙の霊力、不老長寿や平安を願い讃える。酒の表裏が芸能として長く継承されてきた。そんな祈りを込めて、若いバレーダンサーと老能楽師のコラボレーションは絶妙のコンビネーションとなった。時代は変わるとも、芸能は洋の東西を問わず人から人へ受け継がれてきた。娯楽であると同時に神への祈り、酒が人生の楽しみであると同時に神への奉げものであるのと同じように。

公演終了後わずかな時間をつかって、イギリスの郊外、田園を楽しむことができた。またバーミンガムまで北上し、9 月 30 日は「ロイヤルバーミンガムバレー団」の初日公演に当り、昨年まで東京の新国立劇場の芸術監督であったデビッドビントレーさんが本拠地に帰任し、その最初の公演「美女と野獣」を楽しむことができ、ご夫妻と共にディナーをご一緒させて頂いたことは、大いなるご褒美を頂戴した心地であった。

わずか数日の短い滞在であったが、英国在住の方々との御縁、日本の芸能に興味を持って頂いた多くの方々に感謝を申し上げ、恙無く勤められたことに改めて酒の神に慎んで盃を捧げたい。(2015 / 2/ 28)

夢の時間の Riddle（謎）

ビドル　恵

夢という言葉には、自分の将来に対してああなりたい、こうしたいといった希望と、眠っている間に脈絡も無く見るもの ― との二つの意味がある。
初めの方の夢（希望）は個人的なものなので、ここでは万人に共通する睡眠時に見る夢の方を書く事にする。
と言っても、こちらの夢に関してはフロイトを始め沢山の心理学説や夢判断書が巷に溢れており、こんな夢を見るのはこんな意味という話は私ごときの出る幕では無いので、Sci-fi 好きの私が集めた、夢と睡眠に関するちょっと恐い話を書きたいと思う。
あっ…そんなに恐くは無いですから、「私には恐い話は駄目だ」なんて読み飛ばしたりしないで、どうぞ最後までおつき合いください。

まず、夢の話に入る前に肝心の睡眠についてから。
睡眠は、睡眠中でも閉じられた瞼の下で眼球運動が行われる為(Rapid Eye Movement=REM)この有無で、レム睡眠とノンレム睡眠の二種類の状態に分けられている。レム睡眠が浅い眠り、ノンレム睡眠が深い眠りである。人に依って多少の差はあるが、眠りは相対的に深い眠りのノンレム睡眠にストンと落ちて始まり、次に浅い眠りのレム睡眠と交互に繰り返される。普通（一晩）の眠りの中で、レム睡眠は４－５回起こり、この浅い睡眠の時に視覚的イメージの鮮明な夢を見る訳だ。
私の場合は絵を描く事と食べる事が好きなせいか、見る夢はずーっと総天然色、おいしく食事もするし、英国の生活に慣れた頃からは登場人物（日本の家族も）はすべて英語を話している。それと匂い。これも記憶の奥にしまい込まれているのか、夢の中でも匂いを感じる事がある。特に亡くした愛犬のフサフサした毛並みの、日なたのような匂い、これを嗅いだ時は懐かしさに涙で目覚めたりする。又、レム睡眠下でも意識は完全に眠ってしまっている訳ではないので、この頃は（加齢と共に）トイレを探す夢というのも度々見て、夜中にゴソゴソと起き出すちょっと悲しい状況である。

さて、科学や生・心理学が発達していなかった遠い昔、夢は邪悪な心や悪魔が見せるものとして恐れた西洋に対し、東洋では夢は心理的な現象ではなく、肉体から魂が離れていって実際に経験するものと考えていた。

例えばヒマラヤの麓、インダス川の辺に栄えたシャカ族の王子シッタルダ（後のブッダ）は、小鳥になって生まれてから死ぬまでの一生を夢に見て（体験して）、この世の生と死、苦しみなどに対する疑問を抱くようになったと伝えられるし、中国では胡蝶になった夢を見る荘子の話から、体から魂が抜け出てしまう（体から離れた魂は、その人の肉体を具象しているので幽霊に似ている）女性を描いた“離魂譚”（りこんたん）という話も有名だ。
日本の古い歌の中にも「朝髪の思い乱れてかくばかり　なぬが恋うれぞ夢に見えける」という一首があって、相手が想いをかけているから、その人の魂が自分の夢の中に現れると信じていた事がわかる。相手の想いを知って心乱されるという美しい歌ではあるが、考え方をちょっと逆にしてみると少々恐い話である。自分が誰かを想えば、その人の夢の中に現れる事ができるのなら、もし相手を憎んでいたり怨んだりしたらどうなるのか。（その意味では西洋的な考えに近くなる訳で、夢に関しては東西あまり違わない）

世界で最も古い長編小説“源氏物語”の中に、魂が肉体から離れて行く夢を見る“葵”という章がある。

源氏の君の訪れが遠のき、正室葵の上の懐妊を知った六条御息所は、物思いにふけることが多くなり、朝に夕に我が心がフワフワと身体から離れ、葵の上を押し倒したり、打ちすえたりする夢を見る。その頃、葵の上の方は気分がすぐれず、物の怪に苦しめられ、生霊に取り付かれていると悩み、修験者を邸内に詰めさせて魔よけの祈祷を頼んだりしている。六条御息所は目覚める度に、体の囲りに護摩を焚く芥子の匂いが染み付いているのに気づき、髪を洗い着物を替えたりするが、芥子の匂いはいっこうに消えないので、毎夜見る夢の中で魂は本当に体から離れ出て行くものなのかと不気味であった。苦しみの中で産気付いた葵の上の側に仕えていた源氏の君が妻の手を取ると「調伏がきつ過ぎるので、ゆるめていただきたい・・・」と訴える声や様子が、みるみる六条御息所に変貌していく・・・。
嫉妬に苦しみ、葵の上を怨む六条御息所の揺れ動く心と、彼女の生霊に取り付かれてあえなく息をひきとる葵の上を描いたこの章は、能楽でも演じられる程有名で、夢の中で自在に飛びかう魂の事を書いた Sci-fi　ホラー小説としても傑作だと思う。

話を荘子に戻すと、荘子がある時、胡蝶になった夢を見た。夢から覚めた彼は「果たして今の自分はあの胡蝶が見ている夢で、胡蝶の夢の中で、こうして人間の姿をしているのではないか」と思う。

科学の進歩と心理学が常識となった現在、東西を問わず誰もが夢を恐れたりはしなくなったが、アメリカにこの蝶々になってしまった女性が実在する（した？）のをご存じだろうか。
彼女はミズーリ州出身。高校を中退した後、NY で売り子やウエイトレスをして、ヴィレッジで売れない役者に貢いで捨てられ酒や麻薬に浸かり、日の当たらない裏街で３３歳までひとり暮らし、お定まりの売春婦にまで堕ち込むような貧しい生活をしていたが、彼女はいつも笑顔で明るかった。
「ここでこんな生活をしている替わりに、生まれた時から神様が素的なプレゼントを下さったわ。私は自分の中に魔法の国を持っているの」と歌うように言っていた。それはずいぶんときれいな夢で、彼女は夢の中では彼女ではなく、何か違う生命体であったそうだ。
「ずっと眠って暮らせたらいいのに。ここはお金が要り過ぎるわ、お金の為に生きているみたい。死んだらずっと眠っていられるのかな？」　そうして彼女は薬を飲んだが、発見も早かったし、実際には致死量でもなかったので、胃の洗浄も済みそのまま安静にしていれば翌日には目覚めて、普通の生活に戻れるはずであった。けれども彼女は目覚めること無く眠り続け・・・、そして夢を見ている。
彼女の脳波は常に一定のパターンを示し、殆んど夢を見るレム睡眠の状態にある。おそらく閉ざされた瞼の下で、１０年以上も変わること無く同じ夢を見続けているのだろう。（１９８３年で４６歳だった。現在は未確認であるが、９０年代にも英国の睡眠に関した TV 番組で、眠り続けていると報道されている）
レム睡眠下では覚醒し易い状態である事は先にも述べたが、このミズーリの女性の場合は、どんな外的刺激を与えても何の反応も示さず、実質的には植物人間に近い。彼女は魂（精神）が肉体の向こう、夢の彼方に帰化してしまったのだ。この精神の柔らかさに、私は畏怖すら感じてしまう。

シカゴに住む少年の場合。
彼はごく普通の性格も明るい少年だったが、小学生になる頃から時折、夜寝るのをいやがるようになった。性格的なものだろうと両親もあまり心配していなかったが、大きくなるにつれて嫌がり方が尋常ではなくなってきたので、とうとうシカゴ大学の精神医学科を訪れている。初期の問診で、少年は眠ることではなく、眠った時に見る夢を恐れていることが解った。彼は極たまにではあるが嫌な夢を見た。別に夢の内容が、少年にとって恐ろしいとかおぞましいといったものではなく、むしろ好ましいと思えるようなものであったら

しいが（少年が語りたがらなかったので、催眠術を使ってまで知ろうとしている）、その夢を見ることに依って自分が両親から隔絶していき、やがては完全に現実世界から離脱してしまうに違いないという脅迫観念を持っていたのである。
睡眠不足を訴える患者の中に、ごく稀なケースとして睡眠時無呼吸という症状がある。睡眠中は誰でも覚醒時よりは呼吸中枢の活動が低下する為、呼吸が遅くなるが、この症状の場合活動低下が激しく、呼吸運動器官が働かなくなり、呼吸が停止してしまう。呼吸が止まると血液中の酸素が減少し、炭酸ガスが増加する。この状態が１００秒も続き、炭酸ガスが異常に多くなると覚醒作用が起こり、患者は目覚めて呼吸がなされるが、この覚醒状態は血液中のガスが正常になるまでの２－３秒で、すぐ睡眠に戻る。そしてまた呼吸停止、覚醒と、睡眠中ずっとこの繰り返しで、当の本人は呼吸が止まって何百回と目を覚ましていることには、まったく気付かず、睡眠の満足感が得られず常に眠くて仕方無いという訳だ。シカゴの少年はこれに似た症状で、そのたまに見るという夢は、この呼吸停止を起こした時に見ている。
１０ヶ月の検査中に三度、睡眠時に突然呼吸停止を起こし、５－１０分程の仮死状態に陥った後蘇生しているが、その仮死状態の間に経験した現象を少年は夢と呼んでいた。
彼は夢の内容を語りたがらなかったのではなく、少年の知っている言葉では語れないもの、我々の言語では表現し尽くせない世界　―　そういうものを見ていたのである。少年は四度目の仮死状態から、とうとう蘇生しなかった。

話は私事に戻るが、私も少女の頃から３０歳ぐらいまでの間に、非常に沢山の夢を見た時期があった。

少女の頃の夢は現実逃避型、夢の中で私はまったくの別人だったり、別の生きものだったりした。（ミズーリの女性のケースに似ている）野原を自由に駆けまわったり空を飛んだりと、とてもきれいな夢を見たので、夜になって眠りに就くのが楽しみだった。
そして翌朝には目覚めて現実の世界に引き戻されるのだと思うと、とても悲しかったことを覚えている。

後に思春期を迎えた頃からは、悔し涙で目覚めるような嫌な夢が多くなり、“金縛り”（かなしばり）にもあう事が増えて逆に眠るのが恐くなった。金縛りは「体の上をネズミが走る」とか「何かが体の上に押し掛ってくる」あるいは「足を引っぱられる」等、様々な言い方をされているが、主に眠りつき始めた頃に起こり、まだ目は覚めているのに体が動かなくなるという状態のことである。又、この金縛りに陥る前兆として、木枯らしの吹くような音や、小動物が走り回るような雑音（Static/White noise）が耳の奥でし始める事がある。普通のキーンといった一定調子音の耳鳴りと違い、この雑音は覚醒と睡眠の狭間で音量が変化し、睡魔に捕われる瞬間には耳をつんざく轟音となる。
科学的には、肉体の運動機能が睡眠下で低下する為と説明できても、一般的に幽体離脱や超常現象説、又は心霊現象のひとつと思われているので、実際にその場に直面するとパニックしてしまう。
このまま金縛りの状態でいたら、何か良くない事が起こるのでは、といった恐怖に取り付かれてしまうのだ。この状態から抜け出す為に、どれ程苦労するか、渾身の力を振り絞ってもがき苦しみ、叫び声と供に寝床から起上るのだが、その後の、冷や汗を拭きながら動悸の納まるのを待つ間の嫌なこと。
私はこの金縛りの徴候である雑音に気付いた時は先手を打つようになり、寝床から抜け出して気分転換と身体に適度な疲労を与える為に、東京の夜の街（主に川越街道）を、よくジョギングしたものである。

今にしてみれば、普通はノンレム睡眠（深い眠り）で始まる眠りが、何らかの理由でレム睡眠（浅い眠り）から始まっていたのだ。
目覚めやすい夢うつつの状態の下で、体が先に眠ってしまうという体験を頻々としていた訳で、その理由のひとつに思春期直後の情緒不安があったのではと思う。

ちょっと恐かったですか？シカゴの少年のケース等の睡眠時無呼吸症は、極めて稀なので、どうぞご安心を。又、神経質で「こんな話を読んでしまって今夜は眠れそうにないわ」という人や、情緒不安定気味の方には、カルシウムのサプリメントがお勧めである。

加齢（更年期を過ぎた頃から）と共にホルモンの分泌が衰え、カルシウムが不足し始めると、気が滅入ったり情緒不安になりやすく、骨粗鬆症を引き起こしたりする。
この時期に入ったら、食品からだけでは足りないので、カルシウムとビタミン D&K の錠剤を試して欲しい。なんだか薬局の片棒を担いでいるようだが、これは化粧、薬品を販売する会社に務めていたときに、薬剤師の先生から学んだ話。

情緒不安と不眠症を訴えて、精神安定剤を求めてくる患者（客）に、処方箋無しで販売できる薬の殆んどは、カルシウムが主成分だそうである。
そして快適な睡眠を得る為に、僭越ながら私からのアドバイス。

1） 生活を規則正しく、毎日適度な運動をして体を程好く疲労させる。
2） 晩餉は８時前には済ませ、油っ濃い物、刺激物（カフェイン、チリー、大量のガーリック等）は避ける。
3） 熟睡を促す心地良い Comfortable な寝床と環境を整える。（大いびきをかく相棒やペットは寝室からケリ出しておく）

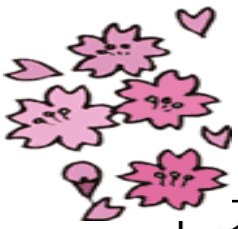
あれから３０年近く経った現在、夜中のトイレ起きと猫の出し入れの為に、少々睡眠不足気味ではあるけれど、適度な運動を心がけることと、サプリメントのおかげで“金縛り”にあうこともまったく無くなり、毎日美しい夢を見つつ（夜中のトイレ探しですら、豪華なホテルやシャトーの中だ）健やかに眠っております。
ご通読に感謝すると共に、今夜もぐっすりと良く眠れます事を願っております。　　Happy Dreaming!

*カルシウムのサプリメントは、Warfarin 等の血液を薄める薬を飲んでいる方には向きませんので、医師の相談を受けてからにして下さい。

英国春秋つれづれに

春　爛　漫

哀しみを　持て余したり　春陽（はるひ）ざし
水浴びの　鳩羽ばたきて　春日（はるび）散る
風吹きて　幕上がりたり　花の宴
地に落て　なほ艶（えん）なりや　紅椿
春嵐　　万の花びら　　蝶となり
一年（ひととせ）の　香りまつわる　花衣（はなごろも）
また一つ　悩み増えたり　花愁ふ



年寄りの「冷夢」！？

加藤節雄

日本に一時帰国した時に昔の友人に会うことが多い。大学時代の同級生だったり、カメラマン仲間だったり、ずっと以前にロンドンで知り合った人だったり、相手はいろいろであるが、久しぶりに会った友達と、最近何をしているか、今何に興味を持っているかといった話をするのは楽しい。おいしい日本食を食べながらだったら、なおさら楽しい。

しかし、昔の友人たちと話をしていて、いつも気が付くことがひとつある。私の友人はほとんどがすでに停年退職しており、悠々自適の生活を送っている人が多い。そんな人でも家庭裁判所の相談員や老人ホーム慰問のボランティア活動をしたり、積極的に趣味や旅行に励んでいる人も多く、そういう人たちと会うと話が弾み、これからあれがしたい、ここに行きたいという将来の話まで飛び出して、こちらも大いに刺激になる。

ところが、人によっては過去の話しかしない人もいる。昔こういうことがあったとか、こういう人に会ったとか、10 年、20 年前の話に遡ったりする。10 年前の失敗を反省していまは立派にやっているとか、20 年前に会った人が今は何をしているとか、と言う新しい情報ならまだ良いが、こういった人は大抵当時のエピソードや、最悪の場合自慢話に終始するのである。良く昔のことを覚えているなと感心はするのだが、逆にこの人は今は何も話をする様なことをしていないのではと心配になったりする。

人は現在に生きながらも、過去に目を向ける人と、将来を見る人がいるようである。特に齢を取ってくると、どうも過去に目が行くようでもある。もちろん長年がんばって築いてきた実績を大切にし、それを自慢したい気持ちはよく分かる。そういう話はそれなりに説得力があり、聞く人を納得させる力を持っている。特にある分野で何かを成し遂げた人の話は人を引き付けるものがあるのも事実なので、単に昔の話がつまらないとは言えない。ところが、それが本人にとっては非常に重要なことでも、他人にとっては関係ないことである場合、興味は半減してしまうのである。

逆に我が身を振り返ってみると、過去に特にこれといった実績があるわけでもなく、停年退職年齢はとっくに過ぎているのに、悠々自適の生活は保障されておらず、いまだに仕事に追われ、過去に目を向ける余裕など無いといったのが本音かも知れない。それと同時に過去の話が好きになれないのは、多分自分には自慢するほどの過去の話が無い故のジェラシーというか焦燥感なのかも知れない。そのためか過去の話をする人とはどうもしっくりいかないのである。

私にはまだやりたいことがたくさんある。とにかく、あれもやりたい、これもやりたい、こんな人とも会いたい、あんな所へも行きたい、といった**「夢」**ばかりを見ていて、どうも過去に目が行かないのである。「夢見る乙女」なら未だ可愛いが、「夢多き老人」となると、これはもう犬も食わないに違いない。

夢には実際に寝ている時に見る夢の他に、将来の夢とか、実現したい夢という「希望」とか「目標」の意味での夢がある。私の夢は後者の夢で、いまだに夢をいっぱい抱えている。余命を考えたらこれから先どのくらいの夢が実現されるのかは定かでない。もしかしたら私の夢は単なる気負いなのではないかとも思う。「年寄りの冷水」という諺がある。若い者に負けたくないという負けん気で冷水を浴びる老人のことである。私の夢は冷水ならず、「年寄りの冷夢（ひやゆめ）」に終わるかも知れない。しかし夢には年齢制限はな

い。過去はわざわざ振り返らなくても、自分の血肉になっているはずである。これからも将来を見つめて大いに夢を見ていこうと思っている。

夢を楽しむ

矢嶋蓉子

睡眠、私は寝る事が昔から趣味のようで 8～10 時間は必要。歳のせいか、この頃では夜中の 2 時、4 時とトイレに起きるので、その時は一旦、夢から醒めます。然し又続きではない他の夢を見るから、一晩に 3 種類の３本立です。

現在 50 才過ぎの娘達の幼き頃が写し出されます、パーテイをしています、手作りのご馳走に楽しそうに皆とテーブルを囲んでいます。夢ですっかり満腹になってしまいます。

亡き夫の生前の姿、若く溌剌としていてカッコイイ出勤時のや、私も若い姿で門迄送り、手を振って別れを惜しんでいる・・・などです。これは何度も見たい夢です。

又友人と逢って一緒に旅をしているけど、そこは東京の近郊かしら・・・。でも気が付けば、彼女は今、天国の人でした。昔と全く変わってはいませんでしたが。

雨が降り寒い日でした。宿に着き、蒸し寿司を注文しています。広い畳、十畳敷程の処でした。私は、食事前にヨガを指導している。複式呼吸をすれば食欲は一時的に止まると、効用を説明しているのです。さあこれから食事と思った時には夢は終わってしまいました。

引っ越しで懸命に働いて、娘達も手伝っています。然し主人は現われない。片付いて一腹というと時にひょっこり姿をみせて・・・皆から「ずるい！」と言われています。

今は亡き姉が現れて、私に洋服を仕立てくれています。明日はパーテイで、母親も顔を出し、笑んでいました。この夢を見た翌日、こんな短歌が、ふと心に浮かびました。

映し出す　この姿をと　懐かしむ
時には笑い　又涙さえ

ここで、「あゝトイレに一寸」と一旦終り、さあ夢の続きを見ようと床に入るがもう終わりです。

夢を見るのは熟睡をしていないからとも思うのですが、頭の中は愉しい一時が映し出され満足の様です。色々その時々の景色、情景、忘却の彼方に浸って、又一日が始まる。
生命を大切にと願っています。

雪の路　置き忘れられた　夢の跡

もう一度　出会いの中に　春を待つ

夢の画廊

クーパー　矩子

「どこにお勤めですか？」と聞かれ「銀座の画廊です」と答えると「まあかっこういい！」と云われてしまう。けれども画廊で働くのは結構きついものなのだ。

時は東京オリンピックの終わったあと、場所は銀座並木通り。
一階が現代版画を主に扱う店で、二階に画廊と和室の貸教室（袋物作りや書道）がある。出勤すると先ず二階への扉を開けて画廊のお掃除。（たまには床にワックスをかける）
その週の個展をする作者やお客がみえるとお茶の接待、電話の応待に追われる。
隣にある自分の部屋で次週の個展のポスター描き、案内状を手動式印刷機で刷ってお客筋、他の画廊、評論家、新聞社へ発送する。
下の店が忙しいと売れた作品（額に入ったもの有り）をお届けにも出かける。そして昼休みには他の画廊へ寄って作品を鑑賞したり、接待用の特別なお茶やお菓子も買ってくる。
そして週末ともなれば終わった個展の作品をとり外し、打ち上げパーティ。続いて次の個展の作品搬入、飾りつけで残業となる。何故か私には縁の下の力持ち的な仕事に縁があるらしかった。

画廊では版画（木版と銅板）が主な展示だが絵画や彫刻の時もあった。
名の売れた作家は画廊側も協力的に出るし、個展をすれば美術評論家や新聞記者が来てそれなりの記事を書いてくれる。

主に地方からの作家たちは、例えば教師を本業にしつつ作品を作って二年か三年に一度上京して個展で発表するといった風であった。
画廊に居てわかったことは、いわゆる芸術家が作品を世に出したいのに発表する場が少ないし、限られていることだった。もし私に資金とチャンスがあったら何とかして画廊を持ちたいものだと考えるようになったのだ。恵まれない新人を世に出せると！

場所は銀座でなくとも学園都市といった中央線沿線の御茶の水、吉祥寺あたり。建物は二階や地下では入りにくいから一階が望ましい。広すぎない部屋のコーナーに座って休めるような椅子席もあったほうが良い。
照明によって作品も映えるから少し凝ってもいいな。そして画廊花門と名付けたい。実る始まるの意のあるカムオンとかけて....

そのような夢を描いたのも半世紀前となった。二十代の自分の心持をいじらしく思う今の私である。

美しいもの

田村陽子

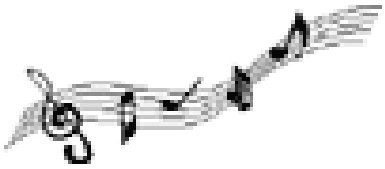
美しいもの、それは花
　暗く、厳しい冬が終わって、春一番に咲くスノードロップ
　コッツウォルドへ行った時、土手一面に雪のように真白に咲いていた。
　心がフゥアーッと明るくなった。

　スノードロップが終わるとクロッカスの花。
　紫、黄色、白と混じり合って花のカーペットのよう。
　ゴールダズ．ヒルの公園に、一面に咲いていた。
　心がゆたかになった。

　３月半ばになると、桜の花
　霞か雲かとまごう程に咲いている桜並木
　家の近くの通りに、一斉に咲いていた。
　懐かしい祖国、日本のことを思って、
　おもわず“さくら”のうたを口ずさむ。
　心がやさしくなった。

美しいもの、それは太陽
　太陽は全ての状況を良きに変えてくれる。
　道行く人が、にっこり笑って“おはよう！”とあいさつ。
　気むずかしい娘もウキウキ
　バスのドライバーだってうれしそう。
　花の色さえあざやかになり、より美しくみえる。
　美しいもの、それは人の心とことば
　心は目には見えないけれど、
　美しい心はやさしい言葉になって、人に元気を与える。
　おいしい料理からも元気はもらえるけれど、
　それはしばらくすると消えてしまう。
　やさしいことばは、いつまでも人の心にとどまる。

美しいもの、それは音楽
　世界中の人が分かりあえる不思議な音のことば。
　悲しい時にはなぐさめを与え、
　うれしい時には、喜びを倍にしてくれる。
　聞くだけの受身の音楽も良いけれど、
　歌ったり、演奏したりする音楽は格別な味がする。



美しいもの、それは人が生きること
　どの人の人生にも、苦労はつきもの
　つまずいたり、倒れたり
　病気になったり、職を失ったり
　人にののしられたり、さげすまされたり
　その他、数知れぬ苦労がある。
　それでも人は生きて行かねばならない。
　“苦労は自分をたん練してくれる薬だ”と誰かが言っていた。

　苦しい時、美しい花が、太陽が
　人のやさしい心とことばが、

美しい音楽が
どんなに大きななぐさめと生きる力を与えてくれることか。

苦しい時、そんな美しいものに目をとめる。
心のゆとりを持とうではないか。

生きるってすばらしい！

夢

古川隆

「私には夢がある」と言えば、誰もがある人を想起するであろう。
マーチン・ルーサー・キング牧師の影響力にはほど遠い私の力だが、夢の大きさは勝るとも劣らない、であろう。
結論を先に述べると私には二つの夢がある。
一は、全世界から核兵器をなくすこと。
二は、これまた全世界から貧困と飢餓をなくすこと、である。

1945 年 8 月 10 日、午前中の日差しがそろそろ厳しくなる頃、いつものように近くの海で友人達と涼しいうちの一泳ぎを楽しみ、さてそろそろ昼ご飯も近づいた頃だから帰ろうか、と言いながら最後の一泳ぎと波止場から海へ飛び込んだ瞬間「ピカッ」と目に入った鋭い閃光。海面から頭を上げた途端に「ドッカーン！」という爆発音が耳に入る。数秒後には、モクモクと立ち昇る「キノコ雲」。 ピンク色に変わっていく空。未だに忘れることができない。アメリカがどのように正当化しようとも、東京無差別大空襲に続き、広島・長崎で無辜の民数十万を虐殺した事実は、歴史上ナチスのユダヤ人迫害に匹敵する最悪の戦時犯罪に間違いない。そして敗戦。

間もなく私の住む小村にも米兵達が時折やって来て、海水浴や鳥獣の狩猟を楽しんでいたのも記憶に鮮やかに残っている。浜辺に寝転ぶ兵士達の側へおそるおそる近寄って彼らを眺め、今思えば恥ずかしい話で、時折キャンディやチューインガムを貰ったが、あの時のチューインガムはどうしたのだろう？鳥黐（とりもち）をつくる時のように口に入れ噛んだような気もするが、どうも定かでない。引き続き訪れた食糧難の時代。

満州国、日本だけが認めていた擬似国家であったが、奉天（現在の中国瀋陽）で当時としては恵まれた都市生活を送っていた我が家は、幸か不幸か敗戦の１年前の父の他界に伴い、母の郷里である長崎の寒村へ移住したが、待ち受けていたのは都市生活者への異端者扱いであった。ただ、今にして思えば無理からぬところもあったのであろう。着物とも洋

服ともわからぬ衣服を身にまとい、藁草履で歩き回っている子供達の間にそれなりの洋服を身につけ靴を履いた子供が紛れ込んできたのだから。加えて話せないどころか、聞いてわからぬ方言。とは言え、ガキ大将になるのにさほど時間はかからなかったが。

今一つの辛かった思い出は、食料不足による空腹感。餓死するような飢餓状態ではなかったが、人家百戸足らずの半農半漁の寒村に一坪の田畑も持たなかった我が家は、母と姉達の衣類などを近村へ持って行き物々交換してはやっと食を確保していたようである。米などは配給制度だったので、大いに不足し、来る日も来る日もサツマイモとカボチャばかりを食していたような気がする。

この二つの原体験が長じての社会活動に大きな影響を与えているのは間違いない 。

日本では、反核運動と Amnesty International（国際人権救援機構）以外は、年末の赤十字募金に寄付する程度のことであったが、妻の母国イギリスへ住むようになり、積極的に参加するようになった。共感できる社会運動団体のデモには、できるだけ参加したり、些少だがチャリティ団体にも寄付を行ったりしてきている。その背景には第二次大戦中、自らの信条を貫き兵役拒否のため収監された筋金入りの平和運動者の義父の強い影響がある。来英間もない頃、彼から教わった二つのイディオム
”to live in a fool’s paradise” と“I’m all right, Jack”を座右の銘とし、 そのような人間にならぬようにと、自らを律している。

仕事をしていた時には、定期的な賛助金の他、遊興費の１０％を必ず寄付するように心がけ、時折賭ゴルフなどで 勝った際にはそれも回したものだった。引退し年金生活に入った今も遊興費の１０％は守り続けている。もっとも大した額ではなくなったが。

イギリスには数多くのチャリティ･社会奉仕団体が存在するが、私が積極的に参加した、あるいはしている団体は、Amnesty International（国際人権救援機構）、CND（Campaign Nuclear Disarmament）、 CAAT（Campaign Against Arms Trade）、Avaaz （世界中にネットワークを持つ社会運動団体）、 Oxfam（貧困問題に取り組む国際協力団体）、 Save the Children、月刊誌を発行し Homeless をサポートする The Big Issue などには、ささやかだが今も支援を続けている。ボランティア活動は、Oxfam 及び Isabel Hospice（末期癌患者のためのデイホスピス）で行った。さすがに今は、デモやボランティア活動に参加することはなくなったが。

最近日本でも講演を行った経済学者トマ・ピゲティは、現代資本主義が陥っている不平等主義への警鐘を鳴らしているが、約２千年以前、魏の詩人曹植は

貴に在りては多く賤を忘れ　恩を為すこと誰か能く博からん
狐白は冬を禦ぐに足るも　焉んぞ無衣の客を念わん

と嘆いている。 人類２千年の歴史を経ても、未だ贅を好む人々の欲望は他を顧みないほど尽きることがないのであろうか？

多くの反核団体の声やオバマ大統領の提言にもかかわらず核兵器廃絶への見通しは、必ずしも楽観できるものではなく、未だに多数の人が貧困に喘ぎ、ゴミの山をほじくり返し今日の糧を求めている姿を見聞すると、無力感に陥る時もあるが、一方、心ある人達がその解消に力を尽くしているのも現実であるから希望を捨ててはいけない、世の関心をなくさないためにも、折を見て問題意識を喚起しなければいけないと思っている。

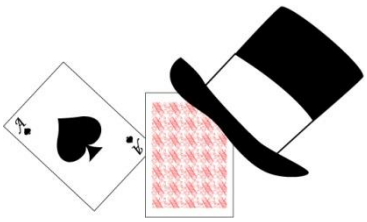
最近、世界中のフットボールファンに人気のあるスエーデンのプレーヤー、ズラタン・イブラヒムモビッチは、警告の対象になることを承知の上で、飢えに苦しんでいるであろう世界の子供たちの名前を彫った上半身の刺青をさらけ出すため、ユニフォームを脱ぎ捨てて民衆にアピールしている。その他、希望の光は多く存在する。

二つの夢は、私の世代では実現しそうもないが、志のある人々に後事を託し、私の死後は、ささやかな資産のほとんどを社会運動団体への寄付とし、旅立への準備を終えたところである。

マジックと外交

川村博司

私が外務省に入省して間もない頃、外務大臣は故倉成正先生でした。ある夜、私は外国からの要人をお招きした倉成外務大臣（当時）主催の晩餐会の通訳として会場に同席させて頂きました。冒頭、倉成外務大臣のご挨拶で始まりました。が、なんとご挨拶の途中でマジックが出てきたのです。それも華麗な手さばきで次から次へと驚きのマジックが続きました。相手国の大臣も大喜びで、拍手喝采、その場が一気に和んだのは言うまでもありません。その後、仕事の話になりましたが、和んだ雰囲気の中、非常に突っ込んだ、有意義な意見交換になりました。



大臣が手品をされることは承知していましたが、正直、晩餐会の場でされるとは予想していませんでした。しかし、その後わかったのですが、先生は外務大臣ご在任中も常にマジックとともにあり、外国ご訪問の際の会談やレセプションなどでもマジックを取り入れておられたとのことです。

そもそも外交を進めていく上で相手方との良好な人間関係、信頼関係を先ず構築することは極めて重要だと考えています。良好な人間関係の上に国と国との友好も確立していくものだと。マジックと外交なんて一見関係なさそうですが、外交を進めていく上でマジックを一つのきっかけにして良好な人間関係を築き上げていく、そうした倉成外務大臣（当時）のお考えに私は深く感銘致しました。

私がマジックを本格的に練習し始めたのはそれ以降です。その後、外国にも何度か配属になりましたが、行く先々で私はマジックを有効活用しています。いろいろなところでスピーチなどもさせて頂いていますが、スピーチの中にマジックを取り入れたりもしています。もちろんマジックをお見せすることが目的ではありませんので、話の流れの中で、その話に沿ったマジックを選んでスピーチを組み立てるようにしています。ちなみに、日本のマジックはすごく手の込んだものが多いのも特徴で、結構人気になります。これからもマジックを活用していきたいと考えています。ただ唯一気になるのはそれなりの出費になること。家内には迷惑を掛けており、この場を借りてお詫びする次第です。

マジックを通じて学んだことも多々あります。
一つは、常に新しいものを作り出す喜びを忘れないということ。初歩的なマジックにシルクの出現マジックがあります。ご覧になった方も多いと思いますが、両手を開いて見せて、何も持っていないことを示します。裏も表もです。しかし、一瞬握った手の中から真っ赤なシルクが突然出現するというものです。私も初めて見たのは子供の頃ですが、驚きました。その後、自分自身、実演するようになったのですが、自分自身が何もないところから何かを出現させるというのは爽快です。何もないところに何かを生み出す喜び。これはマジックの世界にとどまるものではなく、実社会においても体験できますし、生み出したときの喜びも一入です。私自身、仕事の上で、また、実生活においてもこの喜びを忘れず、常に新しいことにチャレンジし、新しいものを生み出すよう努めています。

二つ目は、不可能は必ずしも不可能ではないということ。英語で square the circle という表現があります。「不可能なことを企てる」とか「無駄な努力をする」という意味ですが、そもそもは、数学的に円と同じ面積の正方形はできないということから、このような

意味になったそうです。しかし、square the circle は本当に無理でしょうか。紙面上では実演できないのが残念ですが、金属でできた円を取り出して、お見せします。それを握って、１、２、３で一瞬の内に正方形にしてしまうマジックがあるのです。私はこれが大好きで、いろいろな場で演じています。そうです。不可能は必ずしも不可能ではないのです。やはり仕事上や生活上、困難に直面することも多いのですが、私自身、square the circle を念頭に、常に最初から無理だ、不可能だなどといって諦めることなく、挑戦していくように心がけています。

最初から無理だなどと決して諦めることなく、常に新しいことにチャレンジしていき、新しいものを生み出していく。これが私自身、手品から学んだモットーです。

今回の英国春秋のテーマは「夢」と伺っています。もちろん難しい外交問題をマジックで一瞬にして解消してしまう「夢」が実現できれば最高です。しかし、それは「夢」のまた「夢」です。仕事の上で自分自身は微力ですが、日英関係の更なる促進のため、また、本年４月より英国日本人会の名誉会長も拝命させて頂きましたので、イギリスにいらっしゃる日本人の皆様方のお役に少しでも立てるよう引き続き地道に努力していきたいと考えています。

ちなみに、個人的な夢はやはり、アマチュアでまだまだ初心者とはいえマジシャンとして一度は大がかりなイリュージョンを手がけたいなと思っています。将来、どこか暖かい国に赴任する際には、虎やライオン、さらには象の出現マジックなどができると楽しいかなと思いますが、自分の命も大切にしていきたいとも思います。

それでは最後に紙面上で簡単なマジックを一つ。
あなたの誕生日を当ててみましょう。

① 先ず、あなたの生まれ月に４を掛けて下さい。
② その答えに９を足して下さい。
③ その答えに２５を掛けて下さい。
④ その答えに生まれた日を足して下さい。
⑤ そしてその答えから２２５を引いて下さい。
⑥ はい、それがあなたの誕生日です！　　（本稿は、筆者の個人的見解です。）

帰国中に体験した二つの正夢、デジャ　ヴー

ガフニー　タミー

２００１年3、4、5月の里帰り中 JR パスで大阪から、広島–福岡経由で長崎に３泊後は本州を北に向い関東、中部地方から東北地方の山形市、仙台市、秋田までの列車旅行をしました。この三週間の道中と帰阪後のイギリスに戻る前と帰英後に観た夢の体験を述べます。

この２回の夢が正夢となり、実際、里帰り中の体験は、１０年以上経った

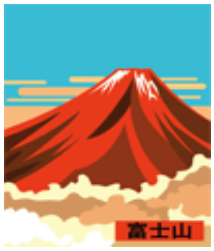
現在も鮮明に心にきざまれ忘れられません。

最初の正夢、
３月半ば長野県の清里市で、３泊４日のハコミセラピーワークショップに参加中、コースの宿「清泉寮」に宿泊最後の夜に観た。この夢の中の自分の姿は、まるで映画の映像の中にいる自分自身を、もう１人の自分がさながら映画の観客として観ているような感じ。

夢の内容、
『日中、歩道を散歩中に気がついた山の上に見える神社の鳥居を目指して、
かなり急な登りの石段を、一段一段登りながら、時に息切れで休む自分。
周りは、緑の大木に囲まれた森林の静寂さに包まれ、都会の騒音からは
一線引かれるかのような、天空を目指して石段を登り進んでいる自分。
森林の中からは姿が見えない鳥達のさえずりコーラスが絶え間なく聴こえるが、
周りには自分以外の人影すらない。
見上げるまっすぐの最上石段まで登りきって後ろを振り向き、自分の登った石段は
どのくらいの数かしら？、っと、最上段から真下を見下ろした。

やっと神社の広い境内に辿りつき平地をゆっくり歩き始めて、
真っ正面に見える神殿に向って進んで行ったら、神殿内が覗き込める距離に
近づき大きなお賽銭箱をみつけた。
夢の中の天候は雲一つない青空が天空に広がり、春の太陽の光の心地よさに
ウットリと感じながら周りを見回そうとした瞬間・・・』
ハッ！と、　目が覚めた！もう空が白み明かるくなりかけていた！
早速朝食前に、この鮮明な夢物語を忘れないよう旅日記に書き留めた。

自分でも、まったく夢とは感じられない程リアルなその映像視覚は、まるで、魂が、体を抜け出して未知の場所を探索しているような情景・・・。たった今連想ゲームの如く、２５年以上も前に母が送ってくれた、本の内容を想いだす。
スェーデン人科学者の自己体験記「スウェーデンボルグの霊界日記」の日本語訳で、彼の実体験を全編収録してある日記。



生まれて初めて宿泊した清里は、信州でも有名な高地で八ヶ岳や隣接する山梨県側から望む「富士山」を始め、日本アルプスの美しい大自然を損なわないように工夫されている。土地の民芸品はどの品も芸術性が高く、持ち帰った土産物は大切な旅の想いでの一コマ一コマを繋ぐジグソーパズル。葉書類や宿のブローシャーを信州への望郷心境になる度に見ては想いに耽り、旅行中の使用済み切符類まで処分しきれず仕舞ったままでいる。
大阪生まれ育ちの私は２３歳での上京後も、天下の美しい『富士の山』のイメージは、東京-大阪間の新幹線で観る東海道線側の富士山の景色とカレンダーや絵葉書で知るのみ。清里に宿泊中、夢を見る前日、宿の女性専用露天風呂から見える山に向って、「あらっ！信州にも富士山そっくりな山があるのねぇー！」と、叫ぶと、「なに云ってんのー？　あれは、正真証明の富士山よ！」と、友人に笑われた。

３月２０日清里を出発した後大阪に一旦戻り、本格的に JR パス３週間の使用開始。大阪から広島と福岡でストップオーヴァー経由後、長崎に３泊宿し、秋田までの汽車旅を続けた。

清里で観たデジャ　ヴーが、長崎市内１人で散歩がてらの観光中に顕現した。観光名所は地元の一日観光ツアーに参加し、長崎平和公園、グラバー邸他を日中廻ったので、翌日はひとりで市内を散策す

る日に当て、長崎原爆記念館を見学する予定にしていた。
前日の観光バスツアーでおよその市内交通の流れも知り、

多少慣れて来たので長崎原爆記念館の正面まで辿り着いたら、「本日閉館」なり。週日の閉館日等知る由もなく、そのまま車道を避けて静かな方面を目がけて歩道をしばらく行くと、大きな鳥居が見えて来ました。
鳥居を見上げると、正面には高-い石段があり、神社本殿の正面入り口に通じる伝統的な大木建築材の巨大な門柱がみえる。それを上がると別の石段が続き境内に入って行くと大神殿が見えて来た。そこでの景色は正に清里で観た夢の中の神社だったのです！
清里発後も親戚友人知人達に会う為の移動旅行が続いたので、夢で観た事を長崎市内の諏訪神社の境内に入った瞬間は、全く気がつかなかった。
後ろを振り返って、石畳の最上段から真下を見下ろした時、「あれっ？　この景色何処かで観たわ！」と、閃き、正夢だったことに驚いてしまった！
その日に行くつもりの原爆記念館が、もし、閉館日でなかったら、わざわざ諏訪神社まで行き着く事はなかったはずなのに・・・。偶然、そうなったのかしら？？？
結果的に、諏訪神社へ呼び寄せられた形になり、里帰り旅行の素晴らしい忘れがたい想い出ができた。
尚、長崎市内の「諏訪神社」が日本国内でもパワースポットとして有名で人気が有る事を全く知らなかったのに。

２回目のデジャ　ヴーはイギリスに戻る３日前の５月１７日、

『神戸の友人宅から日本との時差を見計らってイギリスの夫に電話したが留守。
ヒースロー空港に迎えに来る時間帯、フライト便名と時間の確認をリマインド出来なかったのが気になっていたせいか、その夜に夢を観た。
夢の中の自分は無事ロンドンに着陸し、ヒースロー空港に夫がちゃんと迎えに来てくれたので安堵し家に向う。家に着き玄関のドアーを開けてフラットに入ったら、なんと家内のホールの廊下の床のカーペットが全部無くなっており、全フローが清潔な木目の板の床になっていたのを発見し、驚愕！』で目が覚める。

そして、無事３ヶ月の里帰り旅を終えた３日後に帰英。ヒースロー空港から帰宅し、玄関を開けて家に入ると、３日前に観た夢のごとく玄関からホール全部が木目の板床に変わっていた！！
カナダ産のメイプルの木材が敷き詰められており、廊下と居間の床がまるで日本の家屋そのもので、家内が前より明るくなった。

二度とも帰国中に起き、本当に思いがけない正夢を体験したが、決して摩訶不思議な現象ではないような気もする。

この「夢」をテーマに投稿される諸兄姉のエッセイを読ませて頂けるのをわくわく気分でお待ちしております。
因に、夢は通常、明け方近くの睡眠が浅くまどろみ状態の時に観るのだそうです。

歴史に残る偉大な科学者なども発見や発明のアイデアは夢にヒントが出て来るそうで、
ペンとノートを必ず枕元に置くそうです。

英国春秋歌壇

新　　春

バロー　典子

葉も草も　縁取り白く　ひとつづつ
　　輝く霜の　朝の ひと時
霜の朝　芝生を踏めば　サクサクと
　　一歩一歩の　音の好まし
春来なば　雪に埋もれて　臥す竹の
　　雪振りて立つ　そのしなやかさ

「母より」と　寄せ書き年賀の　文にある
　　文字を嬉しく　見つめていたり
　　はらからの　そろって書きし　寄せ書きの
　　年賀の文に　匂うふるさと
　　いろいろな　国語行き交う　バスの中
　　不戦の思想　思い聞きおり

夫の国　英国住まいの　身の我に
　　世界平和は　身近な願い
“子は宝”と　言いて育てて　下さりし
　　白寿の母を　ことほぎ祝はむ
まれびとの　訪ね賜いし　公園の
　　碑に刻まれし　３、１１（震災日）
ふるさとの　心をもちて生きたしと
　　和歌詠むことを　習いとなしぬ

英国で創業

佐野圭作

栃木県の足利郡三和村中学校を昭和３３年に卒業し、進学校であった足高の普通課に難関(？)を突破して、勇躍進学出来たのは幸運で有ったのでしょう。
しかし、好運は世の常で長くは続かず、家業が大きく傾き、当時の県立高校の月謝（６－７００円）が払えなくなったのが学年２年生の前期でした。
やむを得ず退学すべきを結核で療養中の父親に話したところ、「血痰を吐きながら一喝」され、学業を続ける事になった。
席順で近い、看板屋の心温かい佐藤君、とか我々の誉れの最高裁判事になった須藤君等多くの友人と西村先生の支えとで、
やっと大日様の隣にあった松葉医院に居候をさせてもらい、カルテ書き、飯炊き掃除などをしながら足高を卒業できました。

時は移り、金で苦労の人生に決別すべく、将来のホテル王を夢見て読売新聞の広告で見つけた東京の芝白金にある「八芳園」に職を得ました。
朝は６時過ぎから夜は８時近く迄立ち働き、先輩方は厳しく、チップが来ても下っ端の自分等は何も分け前なしという時代でした。神経と体力を磨耗し、おかげで痔になって倒れてしまいました。残念ながら志を転換せざるを得ず、足高の体育、就職担任の渡邊先生（ハンさん）にお願いして、目出度く日本火災海上保険会社正社員として中途入社できました。

出社は朝９時からで、午後４時には終わり、バスの通勤切符もあるし、年四回もボーナスが支給されるというまさに至れり付くせりの良い会社でした。今は相当変わったようですが。
それこそ粉骨砕身、一命を掛けてサラリーマン人生にチャレンジし、高卒（慶応大の通信教育中退）ながら社長命により若干３７歳で保険業界晴れの舞台、英国ロンドン保険マーケットの課長待遇駐在員として任を得ました。
将来は部長、重役、社長、と希望を大きく膨らませ、在りとあらゆるチャンスに挑み続けていましたが、ある出来事が起こり、自分が海外に居た為でもあるのでしょうがサラリーマンの出世に関しての夢を全く萎ませてしまわざるを得なくなってしまいました。

さんざん迷った末に行き着いたのは「たとえ**Waterloo駅の前で靴磨きになろうとも自分で決められる人生を生きたい**」と言う底知れぬ自己の願望に辿り着いたことです。
そして、永年お世話に成った保険会社を円満に退職させていただき、**独立後の茨の道を４２歳にして始めて歩みだした次第です。**

改めて英国ロンドンに戻り一人孤独の戦いをゼロから始めさせて戴きました。
信用はなかなか貰えず、何でもやれる事はやってみました。
最終的には保険業務を目的としていても、当初は、中古車の販売、ウールヤーンの輸出、賃貸住宅仲介そして個人保険などで、私がやりたい企業保険はツテも組織もなく、全く手が出せませんでした。

しかし何とか頑張ったおかげで、創業30周年が来年目前に迫って来ました。自分も７２歳の羊で年男、日本へも逆上陸を果たし東京ベースで子会社を二社展開させています。
事業の発展を願いつつ、出来れば**「足利市に保険のマーケット」**を創設し、シャッター通りを足利銀座通りにして見たいと夢見るこのごろです。

英国では日系社会を中心に英国との文化交流、地域交流の為に多くの新しい組織を創設しました。

それらは：英国日本人会、在英都道府県人会、栃木県県人会、そして英国日本人社会最大の”ジャパン祭”等です。
１９世紀後半、如何に日本は英国や諸外国からから不平等条約を締結させられながらも多くを学び得てきたことでしょか。そして学べば学ぶほど日英の大切さを心するものです。

自分に残された時間には限りが有りますが、定年退職返上で日本の素晴らしさを当地ロンドンにて英国との間で交流させて行くつもりです。

終わりに、皆様と共に英国日本人会の発展に心を寄せ合って参りましょう。感謝！

注）昨年上記日英交流、他の事由で「外務大臣賞」の授賞の栄に浴しました。
ありがたいことです。

故郷日本 再発見の旅

岡村　光雄

2005 年 7 月に 3 年位の滞在予定でロンドンに来ましたが、期待にたがわずロンドンでの生活は素晴らしく、今年で丁度 10 年になりました。

特に、ヨーロッパ各国の色々な民族が集まる事によるエネルギッシュなコミュニテイ、日曜日のミサでの信徒達との暖かい交流を通し異民族でもフレンドリーに受け入れてくれるヨーロッパの人達の寛容さを体験。他人への余分な干渉が少ない人間関係。自然と建物を調和させた町づくり等感心しきりでした。
毎日のように開催されるシンフォニーホールでのコンサートは、価格も安く手軽に利用できる為、私たちも毎月 2 度はホールに通い、レベルの高い演奏を楽しむ事が出来ました。
又、ヨーロッパの各都市へは LCC(格安航空会社)が網の目のように運行されているので手軽に旅行でき、美術館・歴史博物館等の文化施設を中心にこの 10 年でヨーロッパの 20 国以上、100 を超える都市を訪問する事ができたことなど、思い切ってロンドンにやって来て良かったと満足しています。

しかし母国日本と比べ、物足りない点も感じるようになりました。

1.　ロンドンは一年中太陽の光が弱く冷涼な気候である。(本格的な夏はない。)

ロンドンの緯度は樺太北部、スエーデン・ノルウエイは亜寒帯のカムチャツカ半島と同緯度などヨーロッパは日本に比べ高緯度です。その為ロンドンでは冬になると、毎日のように厚い雲に覆われ、日差しが弱くまれにしか日光浴もできません。私も GP の検診で「ビタミン D が少ない様だから、サプリメントを飲むように。」言われたことがある程です。又英国の海岸は真夏でも寒々としているため、うきうきした開放的な気持ちになれません。その点日本では札幌はマルセイユ、東京はマルタ島、沖縄は亜熱帯のカイロ、石垣島はドバイ等低緯度に位置する為、夏の海岸での眩しい太陽、青い空、むくむくと湧き出る白い雲、コバルト色の海、深い緑の森林等、南国の情緒を味わえます。

2.　日本では至る所で温泉が楽しめる。

日本列島に走る火山帯のおかげで至る所で温泉が湧き出ていて、全国で温泉地は 315 ヶ所、入浴を楽しむ温泉宿も 13,000 軒と温泉大国です。

ヨーロッパの温泉は飲むことによる療養が目的で、心身共にくつろぐという目的はありません。有名なバーデンバーデンのカラカラ浴場でも源泉の温度が低く、ゆっくり休むと言うよりスイミングプールに入っているような雰囲気で風情を感じません。

その点日本の温泉の源泉は 60 度～80 度と高く泉質も硫黄、塩化ナトリウム・単純泉等種類も豊富で、水で適当な温度にしたり、外気で醒ましたりと贅沢。リラツクス出来ます。

3　日本では　新鮮な魚貝類を楽しめる。

日本列島には大きな寒流(親潮)と暖流(黒潮)がながれ、そこを泳ぐ魚は種類が豊富で特に親潮と黒潮がぶつかる三陸海岸沖は世界の三大漁場の一つと言われるように魚の種類が多く身が締まって美味、又日本の食文化の伝統から色々の種類の魚料理を楽しめます。それに比べヨーロッパは肉食文化のためか、魚の料理等も稚拙で満足できません。

又、日本は 4 季がはっきりしていて、最もおいしい時期「旬」の料理を楽しめますが、ヨーロッパの食事は季節という感覚がなく、単調な料理となりがちです。

4　日本は長い歴史と独特の歴史文化遺産を持つ。

奈良・平安・室町時代の関西の文化遺産。又江戸の 250 年間の鎖国体制の間に、海上・陸上交通網が日本津々浦々まで整備され、経済・産業が発展し、日本の伝統芸術が磨かれた平和と安定の時代の歴史と文化遺産は特質されると思います。

ヨーロッパがこの時代、ドイツ 30 年戦争・スペイン継承戦争・アメリカ独立戦争・ナポレオン戦争・奴隷貿易・アジアへの植民地戦争など戦争と略奪の荒々しい歴史から生まれた歴史・文化遺産とは大きく異なっています。

故郷日本　再発見の旅

そこで今年 6 月にロンドンから帰国。帰国後約一年間、外国で生活した経験を生かし、新たな目で日本の各都市の魅力を発見するという「故郷日本再発見の旅」を計画しました。

日本は北端の北海道から南端の亜熱帯に近い沖縄・石垣島までの距離はロンドンからシシリー島までの距離に匹敵する 30,000km にも達する弓形状をした長い「列島」です。

その為、私たちの旅も「東京から空路札幌に向かい北海道から東北経由で東京に戻る北国ルート」「東京から空路沖縄に向かい、沖縄のマンションに 4 カ月滞在し九州石垣島に滞在する南国ルート」を計画しました。

北海道・東北地方

入国後の手続き等で 2 週間東京に滞在して、７月１４日北海道へ。

札幌(14 泊)

札幌市歴史館等で札幌の歴史勉強。ミュンヘンのオクトーバーフェストより美味しいと言われる大通り公園の「夏のビール祭り」。露天での焼きトウモロコシ。カニ料理・札幌ラーメンなど北海道のベストシーズーンを体験。

江戸から明治に栄えた商都小樽を訪ね、海上交通を支えた北前船の歴史館。当時の水路と倉庫街の面影を残す街等を訪ねる。ヨーロッパとオーストラリアでも人気のニセコの大自然を楽しむ。

登別温泉(2 泊)

苫小牧に泊まり、白老町のアイヌ博物館をたずね、アイヌ民族の歴史を勉強。
登別温泉泊まり、豊富な硫黄源泉の露天風呂を満喫。

知床(4 泊)

札幌から 6 時間のバスによる網走へ移動。知床ウトロ温泉泊。温泉からオホーツク海の夕やけを眺める。知床峠と神秘的な知床五湖。羅臼では「北方領土展示館」展望台から北方領土の国後島を遠望。日本有数の釧路湿原を列車で眺めながら釧路へ。

函館(5 泊)

幕末、初の国際貿易港となった函館の外国領事館・教会・石畳みの坂・外国人墓地を訪ね異国情緒に触れる。函館戦争の五稜郭、松前城、函館歴史館、函館山へ。北海道の三大温泉の一つ「湯の川温泉」で入浴。
にしんで栄えた江差へ。豪商家を訪ね、本場の「にしんそば」を賞味。
東北地方

青森　函館発の青函トンネル経由の特急で青森へ。東北三大祭り「ねぶた祭り」のメインイベント「夜行巡航」を楽しんでから最終の新幹線で盛岡へ。盛岡２泊。

三陸海岸(4 泊)

岩手県の「宮古」「釜石」　宮城の県の「気仙沼」「石巻」の 4 都市訪問。
東北大地震の津波により被災した町の「語り部ツアー」へ参加し被害状況と復興状況を知る。寸断された鉄道路線と変則的なバス路線により、4 都市を訪れ、交通網の被災状況と復興状況を知る。盛岡→宮古(バス移動)　宮古→釜石(山田線は不通の為代替バスで移動)　釜石→気仙沼(南リアス線と列車の不通カ所はバスによる移動)　気仙沼→石巻(気仙沼線と不通ヶ所は代替バスによる移動)　石巻→女川(今年 3 月開通した女川訪問。唯一被災を免れた女川原発訪問)　石巻→仙台(石巻線が一部区間不通の為バス移動)

仙台(5 泊)　仙台市, 東松島の被災と復興状況。松島観光。

８月１７日　新幹線で　仙台→東京

沖縄

東京に４泊し８月２１日　羽田から沖縄那覇へ。那覇→北谷町(チャタンチョウ)
那覇の北部、美浜地区の家具付きマンションに 4 カ月滞在。
4 か月の滞在期間中に沖縄の青い空・エメラルドグリーンの海岸散策。独立時代の琉球王国の歴史・太平洋戦争時代・戦後の米軍統治下の歴史・返還後の普天間空港・嘉手納空港・名護市の移設地等訪問予定。
現地の人達と交流し、沖縄の歴史・風土・食文化等を体験する。
又 12 月 21 日から約 3 カ月間、沖縄→九州→石垣島、訪問する予定にしています。

盛り沢山の計画、ロンドンの冷涼な気候に慣れている身体が南国の高温多湿の気候に直ぐに対応出来るか？等不安な点もありますが、故郷日本の魅力を体験出来る旅になればと願って頑張りたいと思っています。

英国日本人会の皆さま、長い間お世話になり有難うございました。
又チャンスがあれば日本から紀行文を投稿させて頂ければと思っています。

「 Never Let Me Go 」
― カズオ・イシグロのミステリアスな世界 ―

小川　のり子

ピカデリーにある書店、ウォーターストーンに“夢中にさせる本”と言うコーナーがある。そこには、「戦争と平和」、「嵐が丘」、「蠅の王様」、「華麗なるギャツビー」など新旧の名作が系列なく置かれている。その中にこの「私を離さないで」（Never Let Me Go）を見つけた時、ここに自分のチョイスも加えられたようで、かすかな喜びを得たのを覚えている。最初、この本に出会ったのは１０年近く前である。ふらっと寄った本屋で手に取ったのがこれで、何の予備知識もなく、ただ作者が“Kazuo　Ishiguro”とあるので買い求めた。そして相当読み進むまでクローン人間を扱っているとは気付かなかった。ここには何ともいえぬ“ミステリアスで異様”な世界が描かれているが、もちろんミステリー小説でもSF 小説でもない。が、私が最初に“クローン人間”と云ってしまうと、まるで“種明かし”を先にしてしまったようで、少々後ろめたい気がする。「臓器提供者としてのクローン人間」という主題はあまりにもパワーフルなので、それだけで先入観が先立ち、他のすべてを覆い隠してしまうのでは・・・・という恐れがあるからかも知れない。

この物語の主人公、キャシーは両親を知らない。彼女の育てられたクローン人間だけを教育する施設から、現在３１歳の介護人となるまでの経緯を、淡々と語るスタイルで始まって行く。冒頭から「あと八か月、今年の終わりまでは勤め続けてほしいと言われている･･･」とあるから、読み進んでゆけば、ああ　彼女もとうとう“臓器提供者”となる番がやって来るのかと切なく思わせるセリフである。主人公が、十代半までを過ごした、“ヘールシャム”と呼ばれる学校時代、卒業後、仲間たちとの共同生活を経験しながら、その“使命”が実行されるのを待つ“コテージ”時代、そして３年後、臓器提供者となった仲間たちの世話をする介護人となった“現在”での話が互いに交錯して展開して行く。

この“ヘールシャム”時代は、主人公キャシーと仲間たちの幼少から十代の半までの学校生活が比較的「普通」に描かれている。ただ、その生活には、毎週受けねばならない身体検査、得体の知れない“マダム”と呼ばれる人物の存在、「あなた達は子供が産めない身体」と保護官から教えられる等、とても「普通」とは呼べない場面が登場する。或る日キャシーが一人でベッドに腰掛けながら、カセットテープを聴いているシーンがある。「ヘイ、ベービー、私を離さないで・・・」と続く旋律に合わせ、枕を抱きながらゆっくりと体を揺らせているのを、このマダムに見られてしまう。その時この気味の悪いマダムの目に涙が浮かんでいるのを見つけ、彼女は驚いてしまう。後で、彼女自身が枕をベービーに見立てたのは大した意図があったわけではないと、親友にもらしているが、読者には、このマダムが涙を浮かべた理由が、痛いほど分かってしまう。他にもドッキとさされる場面が登場。ある保護官が激情に駆られ、「・・・あなた方に老年も中年もありません。・・・いずれ臓器提供が始り…そのために作られたのでそれがあなた達の使命です・・・」と叫んでしまう。この作者はこの衝撃的なセリフに対し生徒たちの受け止め方を、「わたしたちは、ほっと溜息をつきました」と短い言葉で結ぶが、読者の私の方が強いショックを受けてしまったようだ。

私がカズオ・イシグロに魅かれる理由の一つは、彼の描写がいつも、端的で　簡潔で、非常に抑制の効いた文体で表現されることにある。それでいて、観察は鋭く、驚くほど細やかな人間のキビが描かれた場面が随所に登場する。前述のケースのように生徒たちの複雑な思いを、「・・・ほっと溜息をつきました」と短く結べば、そこに言外の、生徒たちの恐れ、失望、落胆、怒りなどを読者自身が想像し、それを大きくふくらませて行ったりす

ることも出来る。それともう一つの理由は、彼が描く虚構の世界があたかも真実の世界と読者に思わせるような、想像力と構成の巧みさがあるからである。少々古めかしい響きはするが、真の小説家とは巧妙な“ストリーテラー”であるはずと私は信じている。特に最近、この想像力と構成力を補うかのように、史実や事実、そして学術用語などで多くのページが割かれた小説を、あまりにも多く読んでしまっているように思える。いま、ふと何の脈絡もなく、志賀直哉の名が思い浮かんできた。おそらくこの日本作家がその端正な文体と緻密な構成力から“小説の神様”と呼ばれていることからの連想だとすれは、私の脈絡はこのイギリスの作家にも当然繋がっていておかしくない。

“コテージ”時代は卒業後、外界の空気に慣れるまでのトライアル期間でもある。カップルも含め５～６人の“提供者”が共同生活をする。キャシーはヘールシャム時代からの親友ルースやトミーと一緒なのだが、この二人が公然とカップルとなったことに、彼女は平静でおれるのかと、読者の私が気を揉む。或る日、誰かの情報でルースの“ポシブル”らしき人がノーフォークで働いていると聞き、コテージ仲間の５人と、それを探しに出かける。彼らは自分たちの複製親が、オフィスで働く普通の人間であり、その親に出会えるかも知れないという夢を抱いている。が反面、その親は、普通の人ではなく、「ヤク中にアル中に売春婦に浮浪者、くずなのよ。・・・」と、親探しの失敗に苛立ったルースにこう叫ばせてしまう。また別のエピソードでは、クローン人間でも男と女が本当に愛し合っていることを証明出来れば、“提供時期”を２～３年延ばしてもらえるのでは・・・との淡い希望が密かに話題になるのもこの期間である。
ここには、酒、ギャンブル、暴力は登場しないが、セックスとポルノの話が少し出てくる。十代後半の若者たちの共同生活の中で、男女の関係が描かれない方が不自然である。しかし蛇足ながら、それらすべてのシーンは、読者を熱い思いにさせるカラフルな色合いで表現されることは全くなかった。

そして現在、冒頭にも書いたがキャシーは３１歳になり、非常に優秀な介護人として働いている。親友だったルースも心をこめて世話をし、２度目の提供後、ひっそり旅立って行くのを見送った。ヘールシャム時代から心を通わせていたトミーの手術後の世話をしながら、二人の関係は、提供者とその介護人以上のものになっている。そして、最後の望みの綱である昔の“マダム”を訪ねた２人は、“提供延期”を懇願するのだが、それが単なる噂に過ぎず、クローン人間にはその選択の余地が全くないことを知らされてしまう。この前後から、この小説は非常に寂寥とした雰囲気が漂い、以前にもそれは時々感じられたものの、まわりをビュービューと冷たい風が吹き荒れるようで、読むほどに何とも言えぬ寂寥感に苛められてしまう。この物語の終焉は想像を逞しくせずとも言わずもがなである。

その昔、友人のリズにこの本を貸したことがある。帰ってきたのを本箱に戻していたが最近また引っ張り出してきた。その際ページの間から、小さい紙切れが床に落ちたので拾い上げてみたら、彼女からのノートだった。それには「なんて物寂しいストーリーでしょう！それでも楽しんで読みました、それが私の心を苛立たせたにも拘わらず」とあった。今彼女のノートをまねて、bleak・寂寥と形容をしたが、私にはそれよりも haunting の方がより自分の気持ちを伝えることが出来るようにも思える。Haunting・憑（と）りつかれてしまうは漢字独特の視覚的な意味合いも加わり、より強力に思えるからである。

昔話ばかりで恐縮だが、以前読んだこの作家の初期の作品の裏表紙にある書評の中で eerie という言葉が使ってあった。意味を知るため辞書を引いたのを覚えている。その文章をよく覚えていないのに、ただこの言葉を借用して評するのは乱暴すぎるが、作家カズオ・イシグロの描く世界は“ミステリアス”で、そこには寂寥感と、鬼気迫るものと、何かに憑りつかれてしまったような気持ちにさせるものが充満している。それはあたかもこの本が「私を離さないで」と声に出さずに叫んでいるかのように。

英国春秋俳壇

俳句を学ぶ会
二年目の作品

丸めたる我が背を包む春陽かな　バンダースケイフ日出美

春一番我が髪乱しすぎゆけり　マスィー富美子

裸の木風が抜けゆく浅き春　デニヤー景子

在りし日の思い出の母落椿　ロビンズ宣美

年重ね子供に還えるひな祭　キング悦子

寝仕度や明日もと願う春日和　上田陽子

背を向けて誰を訪なう春の猫　ロケット康子

胸もとの桜ブローチ何語る　福重久子

花ミモザ日ましに黄色くふくらみて　田口邦子

こわごわと馬に乗る子や春の土手　クーパー矩子

新年会着物姿の友の佳き　クーパー矩子

大寒や文を練りつつ床の中　クーパー矩子

ちんまりと大内びなは母譲り　クーパー矩子

餅ねだるひなの声して春立てり　クーパー矩子

ビール、移民、
そして 38 番のバス

西川千春

Soho のパブで友人達と楽しい一晩を過ごし、38 番のバスで帰って来た。11 時に多くのパブが閉まるので、12 時すぎまでバスは結構な込み具合だ。数パイント飲んで結構気持ちよくなって友達と話していると、ふと不思議なことに気がついた。僕らは日本人同士なんで日本語で喋っていた。隣の連中はフランス語、前のほうにいたインド人は大きな声で機関銃のように携帯でまくし立てている。もちろんヒンズー語(多分)だ。さらに周りからはスペイン語、中国語、ロシア語や全く何語かも分からない言葉も聞こえる。可笑しなことに、英語を喋ってる奴が一人もいないのだ。もう慣れっこになってしまったが、これこそ本当のマルチカルチャー。これだけ多様な人々が普通に生活しているのが世界都市、ロンドンの魅力かもしれない。

僕は 1990 年に日系機械部品メーカーの駐在員として英国にやってきた。子供の時や大学院に留学した関係で、アメリカに合計 7 年住んでいた。必然的にバリバリのアメリカびいきで、当然のようにアメリカ赴任希望だった。僕にとっての外国はアメリカ以外に考えられなかった。会社では自動車会社相手の営業が専門で、その当時は厚木で日産自動車担当だった。早く海外に出してくれと、人事や上司に頼んでいたものだ。入社から 6 年経ったある日、上司から「おい、西川！やっと出たぞ辞令、イギリスだ。」と聞いて仰け反ってしまった。「まっ、まさか。アメリカじゃないんですか？」、「大丈夫だよ、同じ英語だろ。頑張って来いや」の一言。どでかいプールつきの家に住んで、バーベキューをしながらバドワイザー飲んで、スポーツカーのコルベットに乗る計画が全く狂ってしまったのだ。どうやらロンドンは雨ばっかりで、同じフォードでもちっぽけで、ビールも生ぬるい。食事にいたっては・・・。今ほど簡単に情報が入らない中で、不安なことばかり。そうやって 90 年 10 月の暗く雨がしとしと降る午後、ロンドンヒースローに着陸した。「何だよ、この天気・・・」。ましてこの国に 25 年も住み着くなんて、当然思いもよらなかった。

アメリカは移民が作った国、移民のるつぼとよくいわれる。だが果たしてそうだろうか。奴隷制度が長く続き、60 年代に公民権法が成立してもなお続く人種間の深い溝は、昨今のアメリカの出来事を見ても今なお続いていると思う。明確なアメリカ精神に対する忠誠なくして、ひとつの国にまとめていくのは大変なことだろう。それが故のアメリカ人が時折見せる、アメリカンセントリックな言動は傍から見ると結構疲れるものだ。一方、主に第二次世界大戦以降、主に英連邦諸国から移民を受け入れた英国はどうだろうか。少なくともロンドンを見る限り、それぞれが独自の文化をキープしながらも結構うまくやっているのでは、と思う。歴史的に植民地経営に長けたイギリス人は異文化への寛容度が高いのは確かだ。この辺の「取りしろ」をある程度とったイギリス式が非常に心地よかったのか、結局こちらで転職をし、10 年前に独立して居つく結果になってしまった。

翻って日本を考えて見たいと思う。僕は子供の頃から自分は「愛国者」だと公言していた。どうも日本では「愛国者」イコール「かなり右の危ない人」となってしまうようだが、決してそうではない。単に日本人であることに誇りを持っているだけだ。”I am a patriot.” が日本語になるとコンテックスが変わってしまうのだろう。とはいえ自分の考えを正直に人前で言ってしまう僕は、日本では結構窮屈な思いをすることになる。この「取りしろ」が少ないシステムがどうも駄目で、日本を飛び出してしまったのだ。一歩国内に入れば全て日本語で、98%単一民族。「空気が読めない＝KY」と責められる、以心伝心の世界。全

ての人がシステムを理解していることを前提に回る社会。経済規模が大きいため、そういった特殊な事情を理解することなく独自の進化を遂げてしまったのが現代の日本の姿だろう。だがその状況も、もう限界だと思う。2020 年に開催される東京オリンピックは日本が活力を取り戻し、一級国として踏みとどまるための最後のチャンスだ。第三の開国だとも言われる。そしてその開国は絶対必要なのだと心から思っている。

開国とは具体的にはどういったことなのだろうか。細かいことはいろいろあるが、一番大きなポイントは、多様性を受け入れるメンタリティーとシステムを作り上げることじゃないかと思っている。人種、文化、宗教、性別、年齢、障害の有無、性的志向、など一人ひとりが全く違う個人であるという前提から始めるべきだ。よく外国人移民受入れの是非が話題になるが、どうも議論の的が外れているようだ。足りない労働力を確保するための移民政策でなんて、体のいい奴隷制度に他ならない。日本の国力をよみがえらせるための政策として議論、システムつくりをしてもらいたいと思う。移民が多く住む国々で生活をおくったことがない日本の評論家は、、「西欧を見てみろ、みんな失敗しているではないか」といってるが、分かってないと思う。移民なくして今のイギリスはありえなかった、ダイナミズムを取り戻すことができた、という根本的な事実を全くスルーしている。労働党であれ保守党であれ、まともな政治家だったら皆、そういっているのだ。

話を元に戻すとしよう。パブ帰り夜中の 38 番のバスは、まさに多様な価値観を容認するイギリス社会の縮図だった。そんなバスに揺られながら愛国者である僕は、日本はまだまだイギリスから学ぶことが沢山あるんじゃないかと思った。

私の見たバングラデッシュ(2004～2006 ダッカ)

メイ・ゑり

1. 私は 1990 年後半から 2003 年まで日本人会の会員でした。2004 年から 2011 年まではバングラデッシュに住んでいました。最初 3 年は首都ダッカ(Dhaka) 。残りの 5 年はダッカから 300 キロ北東のディジナプール(Dinajpur) のパルボティプル (Parbatipur) に住んでいました。

現在バングラデッシュと呼ばれる国は私が学校で勉強した時は東パキスタンと呼ばれていた国です。
バングラデシュとは --- Bangla + desh、すなわちバングラ語 + 国 -- バングラを話す国です。ここで少しバングラ語を。’deshi’ とはバングラデシュ人。そして外国人は’bideshi’ 。ベンガル語が母体になっていますが、当然違うもところもあります。コルコタ(カルカッタ) はベンガル語なのでバングラを知っていれば意志の疎通は出来ます。英国に来てレストランを経営している多くはシレット地方からが多いようです。彼らはバングラ語の他にシレッティ語を話

します。それは例えると日本人にとっての沖縄の方言とでも言いましょうか。バングラとはとても違います。
バングラデッシュには季節が六つあります。私たちの四季に更にもう二つ。夏--グリシュモ(3 月～5 月）、モンスーン--ボルシャ(6 月～8 月）、秋--ショロット(9 月）、晩秋--ヘモント(10 月～11 月）、冬--シイット(11 月半ば～1 月）、春--ボショント(2 月）。 4 月 14 日ポヘラ・ボイシャクがバングラデッシュの新年です。新年には女の人は赤と白のサリーやらシャロワー・カミーズを着て祝います。
私は主人と 8 年間の貴重な時をバングラデシュで過ごしました。 そもそもバングラデッシュに行くことになったのは主人が Economist に出ていた肥料を作る会社の求人広告を見て採用されたからです。
3 年間の首都ダッカでの暮らしは’生涯で一度の贅沢な生活’でした。 ロンドンの住まい(決して大きい家屋ではありませんが）がダイニング/リビングにスッポリ入る二階建ての一軒家。コック兼家政’夫’ 一人、家政’ 夫’ 一人、ガードナー1,5 人(0,5 人は他の会社の人とシェアしたから）。ガードマン一人。 ドライバー付きの車(パジェロ)が主人に一台、そしてマダム(つまり私）にも一台(セダン)。 以上全部有り難いことに会社持ちでした。

ダッカでの私たちの生活は主人の仕事・役職の関係で多少『ハイソサエティー』的なところがあったと思います。現地の裕福で’上流階級’の人たちとの交流があったり、国連婦人の会の会員になったり。
『マダム』と呼ばれたり、そのように扱われるのは慣れていない私には初め、決して居心地のいいものではありませんでした。一生そのような生活になるのならそれはそれで慣れてよろしいのでしょうが、3 年間だけの『マダム』ですもの。運転手さんが車を止めて回って来てドアを開けてくれるのを待って降りるなんぞ偉そうで、また貧乏性でセカセカした性格の私は自分で開けて降りていました。
でもある時、それはとても自分勝手でその時の状況下ではよくないことだということに気付きました。私はたったの 3 年。でも私の運転手さんはダッカで一生良い運転手とし reputation を保たねばなりません。マダム自身にドアを開けさせるようではドライバーの鏡にはなれませんものね。私の自己満足でそんなことは出来ません。それからは私はダッカで『マダム』の役を演じることにしました。私なりの『マダム』なのでハウス・スタッフ(どうも使用人とか servants というのは見下している感じが私の中ではあるので出来るだけ使うのは控えます)のいる『待機の場所』によく行って色々教えてもらいました。私はマダムで、彼らは運転手さん、コックさん、家政夫さん等、各々がその役をしている訳ですから、階級の上下はありませんでしょ。彼らと話して少しずつバングラ語(Bangla) を習いました。コックさんが皆んなの中で一番英語が出来ました。運転手さんが次に出来ましたが、残りの人は英語はわかりません。
ハウス・スタッフのいる生活はガラスの家に住んでいるようでした。全て筒抜けの感があります。住み込みのハウス・スタッフはそのうちの中で何が起こっているとか、そのうちの家族がどんな人なのか、何を持っているかよくわかります。お出掛けのご主人さま、マダムの運転手さんたちは一日どれだけ『待つ』時間のがあることか。待っている間には他の運転手さんと話をしたりして待ち時間を過ごしているようでした。だれがどこにいつどのくらい居たかすぐわかってしまいます。悪いことは出来ません。

私はバングラデッシュの人の大きな真っ黒な目がとても好きで、またきれいだと思います。外国人に対して敵対心がないように見えます。反ってとても hospitable な人たちだと思います。全くの赤の他人なのに結婚披露宴に出食わすとよくその場で招待されます。
今回はこの位にして置きましょう。少しバングラデッシュに興味が出て来たでしょうか。

英国春秋俳壇

チューリップ

エリオットつや子

目に良しとブルーベリーを勧められ

ブルーベリー食めばプチンとはじく音

シクラメン寂しくないか墓の上

クロッカスつぼみ開けず霜の朝

牡蠣殻にゆるく浮かんだ牡蠣を食う

ひんやりとのど通りけりレモン牡蠣

寒緩み猫かけて行く塀の上

ポプラの芽天を仰いで伸びていく

カーテンの隙間真っ赤に春朝日

チューリップどの花も皆おじぎして

我が青春の助監督時代

渡邉道英

『森一生監督』(1911-1989)は一昨日「生誕 100 年」を迎え、東京は「東京国立近代美術館フィルムセンター」で、京都は「京都文化博物館フィルムシアター」で回顧上映が開催されました。私も久しぶりにロンドンから駆けつけ森一生監督の名作を拝見することが出来ました。「赤胴鈴之助三つ目の鳥人」「薄桜記」「次郎長富士」「不知火検校」「大菩薩峠完結編」「新源氏物語」そして「ある殺し屋」などでした。名著『森一生映画旅』の執筆者の一人、山根貞男さんは「森一生の監督作品には厳正という言葉が似つかしい、と昔から思っています。どの作品を何度見ても、この印象は変わりません」と NFC の機関誌に書いておられますが、全く同感です。見終わった後の感想はどんな作品でも軽快で、爽やかなのです。森一生監督は 1936 年の「仇討膝栗毛」から、1972 年「座頭市御用旅」まで、計 129 本の映画を撮りました。そしてこの私は森一生監督作品の後半の 25 本に助監督として付きました。その全ての作品に付いて、裏話も書いてみます。

「森一生監督」は 1911 年四国の松山市で生まれ、その映画人生は、旧制今治中学（今治西高校）及び旧制松山中学(松山東高校)を経て、京都帝国大学を卒業。1933 年、日活に入社したところから始まりますが、翌年、第一映画という小さな会社の結成に参加し、そこの解散によって、1936 年、新興キネマへ移り、その年に監督してデビューします。そして、1942 年、新興キネマが戦時統合で大映（大日本映画株式会社）に吸収されたので、大映の監督に成り、3 年余の兵役を挟んで、以後、戦後もずっと大映に所属し、1971 年の大映倒産まで大映作品を撮り続けました。このように、森一生監督の映画歴は日活→第一映画→新興キネマ→大映と移ったのですが、その歩みは、永田雅一が日活から独立して設立した第一映画に参加して以来、永田雅一プロデューサーと行動をともにし、大映永田雅一社長のもとで数多くの大映作品を撮ったのです。

『森一生監督』は生涯 129 本の劇場用映画を獲得しました。驚くべき作品数です。経営者で世界のプロデューサーと言われた、ワンマン社長「永田雅一」とのコンビがこうした驚異的な制作本数に結びついたものと思います。一本の作品の試写会の席上で永田社長から次回作のシナリオ（現場用語「ほん・台本」）を直接手渡されたとの逸話迄残っています。
第二の理由は「早撮りの名人」だったこと。しかもどの作品も人気があって興行成績が良かったことが特筆されます。長谷川一夫主演の「銭形平次シリーズ」はじめ「婦人警察官」「山猫令嬢」「ある婦人科医の告白」といった婦人物シリーズ。さらに「逢魔が辻の決闘」「荒木又右衛門　決闘鍵屋の辻」（この映画は東宝作品一黒澤明監督が大映京都で「羅生門」を撮影と交換した。）「絵本猿飛佐助」「銭形平次捕物控シリーズ」「鯉名の銀平」「酔いどれ二刀流」「俺は藤吉郎」「あばれ鳶」「弥太郎笠」「次郎長富士」「続次郎長富士」など得意とした時代劇映画が並ぶ。

「森一生監督」は大映の看板スターを作り出し、育てて来た監督でもありました。市川雷蔵、勝新太郎、山本富士子、安田美代さんなどはその代表的な俳優さんたちです。「花の講道館」「藤十郎の恋」「朱雀門」「人肌孔雀」「人肌牡丹」では山本富士子さんの魅力を引き出しました。「若き日の信長」「薄桜記」「濡れ髪喧嘩旅」「忠道卿行状記」「新源氏物語」で市川雷蔵さんの時代劇役者としての素質を引き出しました。さらに勝新太郎という従来

に無かった役者（個性的、且つ八方破れの）を大スターに育て上げました。「次郎長富士」での森の石松役『薄桜記』では堀部安兵衛を、そして決定的な『不知検校』での“めくら悪党”役。これが後の「座頭市」のイメージを作り上げました。「新悪名」では愛弟子であった田中徳三監督とともに勝新太郎の新たな魅力「八尾の朝吉役」を大ヒットに結びつけました。個人的ですが私は勝新太郎さんの代表作はこの「悪名シリーズ」だと思います。大好きな映画です。1965年の「忍びの者伊賀屋敷」以降の作品は私が助監督として、制作に参加した映画でもあり、別途詳しく書いてみたいと考えます。

わたしは大学卒業と同時に大映株式会社に入社。１９６５年４月１日付けで京都市右京区太秦にあった『大映京都撮影所』に監督室助監督として赴任しました。 そして、１９７０年８月に退社する迄の間、合計３５本の映画作品の製作に携わりました。その内の半分以上１９本の映画作品は『森組の助監督』として「森一 生監督」のスタッフに組み込まれました。（チーフ助監督の「大洲斉」先輩とコンビを組んでいました）セカンド助監督には勝呂、小林、南野、奥家の四人が交 互に加わりました。とにかく当時の森一生監督は大御所的存在で、年間５～６本は監督されました。さらに他の監督とは比べ物にならないくらいの"早撮り"の 名人として有名でした。そんなことから「森組のスタッフ」は馴染んだ人、機転の効く人が優先されました。スクリプターは勿論、助監督、製作部、美術部、撮 影部、照明部、録音部、俳優部、衣装部の責任者に至る迄同じスタッフ、ベストメンバーが組まれました。従って当時の京都撮影所では、私たちのことを「森組 一家」と呼んでいました。

そんな「森組一家」の作品ですが、「大映京都撮影所」に助監督として過ごせたのは、ほんの６年足らずの歳月ですので、この間に参画した映画作品全て（３５本＋α）について書いてみます。
１９６５年の春、東京教育大学の卒業式を終え、大学時代に活躍した『教育大映画研究会』（東京学生映画連盟所属）の後輩たちに東京駅で見送られて、京都駅 に到着したのは翌朝のまだ肌寒いお彼岸の頃でした。修学旅行や大学時代の「美術史の学外演習」で数回来た他は、生活者（社会人）としての第一歩でした。京 都駅も古いままの建築物で、京都駅前も雑然とした風景で極端にモダンな京都タワーのビルディングが異様に映り、懐かしい「京都市電のきしむ音」が印象深 かったことを思い出しています。

会社の紹介であらかじめ決められていた東映撮影所裏にあった太秦開町の「秀和荘」に落ち着いた私は、直ぐさま学生時代に訪れた『広隆寺』に「弥勒菩薩像」 を見に行った。その後、嵐山から嵯峨野を歩いてみた。平安時代からの歴史が刻まれた世界的な観光地でもあった。さて、最初に着いた映画は市川雷蔵さん主演 の「忍びの者伊賀屋敷」（森一生監督）であった。森組一家の首脳スタッフが一堂に会しての「本読み」（シナリオを通して読む）から見習い助監督（四番目の 助監督です）として参画しました。本読みが終わると、森組のスタッフルームに常駐して、監督、チーフ助監督、製作主任、俳優課長によるキャスティングが始 まります。私の初仕事は「香盤表」（歌舞伎界から伝わったもの）の作成でした。これはメインスタッフに手渡し台本（シナリオ）と一緒に、現場で活用される 便利帳？です。シナリオに基づく、場面（セット、ロケ別）出番（主役からエキストラの数まで）小道具など、細かく必要事項を書き入れておきます。キャス ティングの決まった俳優さんたちの面談、衣装合わせ、ロケハンティングが同時並行で進行してゆきます。ロケーションの多い作品は一週間はかかります。そして、クランクインです。

森組『忍びの者伊賀屋敷』のクランクインは「人間（たいざ）」という日本海に面した美しい場所でした。京都府か兵庫県か良く判りま

せん。撮影所を早朝に出 発して夜遅くロケバスで帰ったことだけを覚えています。長く続く白砂と松の木が印象的でした。若い頃の「霧隠才蔵」が幕府の要人を襲うシーン？であったと 思います。１８歳の恋人役には「八千草薫」 さんがキャスティングされ、たびたび市川雷蔵さんのスタントインを務めましたが、テストとはいえ八千草さんに ジッと見つめられ、劇中恋心を打ち明ける場面など"顔を赤らめた"自分が恥ずかしかったことを思い出しています。当時３０歳を過ぎた八千草さん「谷口千吉 監督」の奥様でした。とにかく、お人形さん見たいに小柄で、可愛らしい女優さんでした。一方。悪役伊豆守役には「山形勲」さんがぴったしでした。この当時 敵役，悪役には名優が沢山おられて「滝沢修」「三島雅夫」「若山富三郎」「高松英雄」「加賀邦夫」「西村晃」「成田美樹夫」さんなどなど、本当に魅力的で した。そして、悪役ばかり演じている皆さんほど好々爺で純朴な人も居ませんでした。色んなことを教えて下さったのもこの人たちでした。今回の「忍びの者伊 賀屋敷」はそのとき以来観ていないので此のあたりで止めておきましょう！

森組『座頭市逆手斬り』が二本目の作品になりました。メインスタッフはお馴染みの「森組一家」の皆様とご一緒で撮影は郷里愛媛県出身の「今井ひろし」さ ん。美術「太田誠一」さん。照明「伊藤貞一」さん。録音「林土太郎」さん。おまけに音楽も前作『忍びの者伊賀屋敷』でご一緒した「渡辺宙明」さんでした。 もちろん主演はご存知「勝新太郎」さんでした。"勝っチャン"とは最初の作品ということになります。"雷チャン"とは正反対の性格でした。とにかく存在感 のある役者さんでした。映画の中の主人公とは別の素顔もとっても魅力が在りました。"勝っチャン"の廻りには常に弟子たち（大部屋の俳優たち）が取り囲 み、相撲をしたり、時間がある時は「将棋を指す」のが好きでした。惜しくも鬼籍に入ってしまった俳優「酒井修」君は私と同期でしたが"勝っチャン"の最も お気に入りのお弟子さんでした。ご存知座頭市シリーズは学生の頃から大好きな作品で、アウトロウ盲目の主人公「座頭市」が悪い奴らを斬って斬って斬りまくるシーンが魅力で、１９６０年の安保闘争のあと世の中が強圧的に落ち着いていた時代、抑圧された若者たちの心のはけ口となったヒーローで、「眠狂四郎」と ともに絶好調の大映作品でした。

助監督として三作品目は、当時大映の新鋭監督として活躍中の『池広一夫』先輩の「若親分出獄」でした。撮影は「本多省三」音楽「鏑木創」録音「海原幸夫」 美術「西岡善信」照明「美間博」主演はイメージ一新の「市川雷蔵」さんでした。此の映画は真夏のお盆休みに向けて作られました。印象深いのは雷蔵さんが 呉・海軍兵学校の軍服姿になったことです。凛々しくて、格好良かったことを覚えています。衣装合わせの時から「濃紺でサージの軍服」と「夏用の純白の軍 服」が雷蔵さんにはぴったしでした。ロケーションも舞鶴港の自衛隊の建造物の前で行いました。レンガ作りの建物に軍服姿が映えて、ムード作りが満点でし た。軍服スタイルの中に"入れ墨"を隠したインテリやくざの主人公が悪い奴らを日本刀で斬りつけるシーン等は未だに目に焼き付いています。

池広一夫監督に継いで、『田中徳三監督』と最初に出会ったのが「悪名無敵」と云う勝新太郎主演の作品でした。「田宮二郎」 さんはじめ「藤村志保」「安田道 代」とは初めての作品でした。新劇の名優「西村晃」さん「金田竜之介」とも初めてで、これ以来長い付き合いをすることになりました。なお八千草薫さんは二 度めになりました。スタッフは撮影:宮川一夫，音楽:鏑木創、美術:内藤昭、照明:中岡源権、録音:大角正夫。此の作品では勝新太郎さんの好きな相撲を取 り入れたことが印象的でした。またあの藤村志保さんが予想外な女親分になったのも興味がありました。そして「悪名シリーズ」の人気は「勝っちゃん」と「二 郎ちゃん」の名コンビが絵になっていました。さらに八尾のチンピラ役に出演してくれた東映所属の「志賀勝さん」他、勝さん配下の西岡、勝村さんなど大映京都の俳優さんたちの喧嘩、その段取りを指揮した「殺陣師の楠本の栄ちゃん」を思い出します。ともあれ森監督のチーフ助監督を長くされた『田中徳三監督』の 代表作の一つがこの「悪名シリーズ」であると確信した映画でした。

『ほんだら剣法』（森一生監督）撮影；今井ひろし、音楽；大森盛太郎、録音；林土太郎、キャスト；犬塚　弘、本郷功次郎、藤田まこと、藤村志保さん他。当 時人気絶頂期にあった「クレージィーキャッツ」の犬塚弘さんを主人公にした楽しい時代劇でした。特撮を交えたエンタテイメントな映画で、結構楽しい映画に なりました。年末の１２月１１日の封切りでした。１９６５年の最後の作品でしたが、森組がクランクアップしてから一週間後には「お正月映画」の追い込みが あって、日替わりで他の組（「座頭市シリーズ」および「眠狂四郎シリーズ」）の別班に加わってロケーションの描写など本編を助けて、正月興行に間に合わせ ることは宿命みたいなものでした。メジャーの映画会社ならではの活動でした。こと年で見習い（フォース）からサード助監督して活躍出来るようになりまし た。《閑話休題》助監督として最初に教えられたのは、「カチンコの扱い方」でした。個人的には大学生の頃、大島渚監督の主宰した「創造社」でアルバイトの 助監督をしていた際、佐々木功さんから教わっていたので「松竹系のカチンコ」ではありましたが、大映仕込み のカチンコには素早く対応出来ました。スクリプターと撮影部、録音部との密接な関係を学ぶことが出来ました。ともあれ、この「カチンコを叩く」ことの重要 性を認識出来ました。さらに現場の掌握と云う意味では台本と友に重要な物に「二枚の雑巾」を持参しておくことでした。一枚は「本番前」の時代劇特有の板床 や廊下部分を奇麗に磨くことです。さらにもう一枚のきれいな雑巾は、主演俳優さんたち、ことに女優さんの足裏の汚れを奇麗にするする為の物です。「大学を 出てから雑巾磨き！？」と思うでしょうが、これが大映京都撮影所の助監督の第一の教えで、スタッフを動かす動機付けであったことを後に知りました。若い助 監督が率先して板敷きの廊下を拭くと、大道具さんは元より撮影部さん、照明部さんたちが一斉に同じ行動に出て、現場が緊張して行きます。そこに監督の声 「よーいスタート」が掛かります。

1. １９６６年度最初の仕事は森一生監督『忍びの者新霧隠才蔵』でした。音楽；斉藤一郎、撮影；今井ひろし、照明；山下礼次郎，録音；大谷　巌、キャスト；市 川雷蔵、田村高広、藤村志保、楠木侑子。あの名作『無法松の一生』（稲垣浩監督）の「阪東妻三郎」のご長男「田村高広」さんと初めて一緒しました。とても 自然で物静かな俳優さんでした。ですが、比較的強い表現の際のセリフは父上様そっくりでした。高広さんとはそのご勝新太郎さんとのコンビでヒットした『兵 隊やくざシリーズ』度々、ご一緒しました。さらにご兄弟の「田村正和」「田村亮」さん。そして「水上保夫」さんとは何回か仕事をさせてもらいました。まさ しく時代劇の歴史を認識する生活が続きました。前にも触れましたが森一生監督は日本映画界きっての"頭の回転の速い人"で記憶力の豊かなひとでした。"中 抜きの名人"ともいわれ現場にいる私たちスタッフは大変でした。映画撮影の現場をご存知の方ならばお判りでしょうが、例えば、悪役「伊豆の守の寝室」の シーンが５カ所在ったとすると、伊豆の守（山形勲さん）の衣装が全部違うなどシナリオの飛び飛びのシーンを一日で撮影しなければならないことがあります。 しかも、床の間を背にした場面は主人公など登場人物がすべて変わる、衣装も小道具も代わる中でドンドン一方向から撮影をして行きます。そして、その切り返し（例えば庭園が見えるセット）を撮って行きます。スクリプターはもとより助監督もその他スタッフも全神経をつかって対応せざるを得ません。そんな折森一 生監督は殆ど記憶されていて、スタッフの間違いをしばしば指摘されていたことを思い出します。このことは後の『若親分凶状旅』の折、売れっ子の歌手「都は るみ」さんを使用した際などは、森組には珍しく殆ど徹夜での撮影をしてお正月映画に間に合わせたことが在りました。この件後日談とします。

１９６６年の二本目の作品目は池広一夫監督の「若親分喧嘩状」でした。主なスタッフは撮影:森田冨士郎、音楽:斉藤一郎、美術:加藤　茂，照明:美間　　博、録音:海原幸夫、キャスト:市川雷蔵、江波杏子、小山明子、高田美和さんが出演しました。市川雷蔵さん演じ

る若親分は"インテリやくざ"と呼ばれ、庶 民を苦しめるやくざ集団に正義の鉄槌を食らわすという、お決まりの作り話でしたが、エンタテイメントな映画作品としては所謂"見せる映画"として、市川雷蔵さんの人気シリーズ化に成功した頃のものでした。また、年齢も近く、仲の良かった"池ちゃん"こと「池広一夫」監督と"雷ちゃん"こと「市川雷蔵」さん の二人が企画をし映画化にこぎ着けたいきさつも在って、池広一夫監督と云えば時代劇「沓掛時次郎」「ひとり狼」など股旅ものが得意でテンポとリズムの在る カットつなぎは小気味の良かった監督でした。映画界きってのサラブレッド監督と呼ばれ、お父さんは大映の製作部長（私の入社当時は取締役をされていた）を されていたし、幼少期は子役をされたほど、美男子でとてもカッコいい青年監督でした。大映倒産後はテレビ時代劇や人気スリラー映画の演出をされ、最近迄活 躍されていました。池広監督にはスタッフに一員として、しばしばご馳走になってきましたが、此の作品「若親分喧嘩状」は冬場の撮影でしたのでフグ専門店 「ふぐ新」でフグ料理を食べさせてくれました。「ヒレ酒」「ふぐ刺し」は事細かに覚えています。

１９６６年の三作目は『眠狂四郎多情剣』（封切り３/１２）で、井上　昭監督でした。井上さんとは初めてでしたが、長年森組のチーフ助監督をされていた先 輩で、個人的にも大映入社以来親しくさせて頂いており、スムーズに井上組には溶け込めました。ご存知「市川雷蔵」主演「眠狂四郎シリーズ」でした。原作は 「柴田錬三郎」で、市川雷蔵さん自ら柴田錬三郎氏に映画化を進言し、許可されたとのことでした。メインスタッフは音楽；伊福部昭、撮影；竹村康和、照明； 古谷賢次、美術；上里忠男、録音；海原幸夫、助監督（チーフ）；国原俊雄。キャスト市川雷蔵、水谷良重、中谷一郎、毛利郁子さん他。京都撮影所きっての 若手監督であった井上監督でしたので、カメラマンの大御所「宮川一夫」さんを崇拝しており、記録映画『TOKYO　オリンピック』の影響でしょう？ズームレンズの多様で、撮影現場は混乱しました。殊にロケーションは良いのですが、セット撮影でのズームレンズの多様は照明部さん泣かせになります。現場をご存 知の方はお判りでしょうが、「パンフォーカスショット」同様、通常より倍してライトが求められます。当時大映には５０ｋ のビッグなライトがありましたが、 スタントインしていますと髪の毛が焼ける匂いがしてくるようでした。こうした強力なライトを数台用意するのですから、時間がかかるし俳優さんたちのアク ションも限定されなかなかOKが出ません！結果は見事なショットも在りましたが、全体的には落ち着きのない写真（映画のこと）になってしまいました。いろいろ勉強になった作品でした。

１９６６年『大魔神』（安田公義監督４・１７封切）『大魔神怒る』（三隅研次監督８・１３封切）『大魔神逆襲』（森一生監督１２・１０封切）の三本の特撮 映画を製作しました。しかも、この三作品とも私は特撮班（黒田義之特撮監督、森田富士郎特撮カメラマン）の助監督として参画しました。第一作目の時は、 「大魔神」に変身する前の「はにわ埴輪」像の製作に時間を割きました。さらに変身して行く過程をどのように映像化するか？さらには「ヌイグルミの等身大の 大魔神像」と「巨大な大魔神」の大きさ、その比率をいかほどにするか？前スタッフで研究を重ねました。第一作の監督「安田公義」さんは若い頃画家を志した 人物で、同監督の絵コンテは有名で現場でのスタッフはとても助かりました。そんな安田監督とメインスタッフは実際に絵を描きながらの打ち合わせで、具体化 がどんどん進みました。

『英国春秋』　２０１５年春号　（ No.26 ）
編集人　小川のり子
発行人　佐野圭作
発行所　英国日本人会
事務局　c/o JEIB
3 London Wall Buildings
London EC2M 5PD

原稿の送り先　ogawa@japanassociation.org.uk 又は
Mrs M Hodgson 492 Canterbury Way, Herts.SG1 4ED